

事業報告

2021

訪問看護認定看護師による
在宅ケア・在宅看取り活動の推進
事業報告書

はじめに

会員の皆様、いつも本会の活動に多大なご協力をいただきまして、感謝致します。

新型コロナウイルスよるパンデミックは未だに終息する気配がなく、新年度も引き続きこの状況を乗り越えて行くことになると思います。いつまでこの状態が続くのかと考える余裕もないくらいの忙しさの中、目の前の療養者・家族に一番近くにおいて地域で看護しているのが私たちです。

私たちは、常にどんなことにもチャレンジしてきました。特に2021年度は通常の事業の他に、日本財団支援事業「在宅看取りを实践できる訪問看護師の育成」プロジェクトという大きなミッションがありました。全国9ブロックのブロック長はじめ会員の皆様は本当に尽力してくださり、心より感謝致します。

今回のコロナウイルス感染拡大で訪問看護が注目されたのも、テレビの報道などで訪問看護師が地域にいることを知り、皆様方が高いマネジメント力を発揮し訪問看護認定看護師としての活躍を实践されて来たところは大きかったと言えます。

研修会のあり方も感染状況に合わせ、今までの集合研修からWeb研修、ハイブリット研修へと変化し、創意工夫をしながら互いに学び合い自己研鑽をして参りました。訪問看護認定看護師は、どんな状況であってもその環境に柔軟に対応し、前進していると自負しています。

現在も地域密着の看護にあたっておられる会員の皆様が、現場のマネジメントに尽力しながら実践・相談・指導の活動をされておられる姿、心から敬意と感謝を表します。

次年度では新たに、在宅ケア認定看護師が誕生致します。その方々と共に皆様と協力していきながら、今後とも発展し続ける日本訪問看護認定看護師協議会であり続けます。

最後に、日本財団様におかれましては、多大なるご協力を頂きましたこと心から感謝いたします。

2022年3月吉日

一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

代表理事 大橋奈美

－ 目 次 －

はじめに

第1章 事業の概要 1

- 1 事業の目的
- 2 事業の目標
- 3 事業のスケジュール

第2章 事業の活動報告 5

- 1 ブロック活動
 - (1) 北海道ブロック
 - (2) 東北ブロック
 - (3) 北関東ブロック
 - (4) 関東ブロック
 - (5) 南関東ブロック
 - (6) 東海北陸ブロック
 - (7) 近畿ブロック
 - (8) 中四国ブロック
 - (9) 九州ブロック
- 2 研究活動支援
 - 2021年度調査活動報告 -近畿ブロック-
- 3 コンサルテーション活動 -北関東ブロック-
- 4 地域向け研修会 -中四国ブロック-

第3章 事業の評価 59

- 1 ブロック活動
- 2 研究活動支援
- 3 コンサルテーション活動
- 4 地域向け研修会

別添資料 65

- 1 会員数及び9ブロック図
- 2 組織について
- 3 理事会及び総会等の開催

訪問看護認定看護師数（日本看護協会 認定部資料）

第1章 事業の概要

- 1 事業の目的
- 2 事業の目標
- 3 事業のスケジュール

1. 事業の目的

平成4年の老人訪問看護制度発足以降、在宅での医療ニーズは拡大し、0歳から100歳超への様々な年代、難病、精神疾患、先天性疾患など多様な支援が必要となった。

現在の日本の医療政策では、急性期が過ぎて症状が安定した患者は在宅療養生活への移行を推進しているため、更なる拡大が予測される。患者や家族が自宅に戻った場合、介護保険制度等の利用も促進されているが、患者本人や家族が担う役割も多い。しかし、利用者の高齢化、独居世帯の増加などから患者本人や家族が担いきれない状況もある。また、地域の在宅医療資源や質の格差が生じ対応できず、施設での生活も、望まない施設での生活を余儀なくされている現状がある。

このような背景から、以下のとおり目標を設定した。

中長期目的 ※3年後

- ブロック活動を強化、支援することで個々の質向上を図り、地域への基幹(リーダー)的な役割を担うことができる。
- 自身の地域に旬な情報発信を行い、他の訪問看護師や地域の質向上を図り格差を是正できる。

最終目的

訪問看護認定看護師のネットワーク強化により、全国どこでも、どのような状態になっても、患者本人や家族が在宅療養に必要な支援を受けることができる体制を作る。地域の課題に合わせた施策・政策(自治体及び国)への提案をし、最期まで望んだ場所で過ごせる体制作りを目的とする。

2. 事業の目標

自己研鑽活動

訪問看護認定看護師としての自己研鑽、もしくは訪問看護の質の向上に資する内容を実施する。

- (1) 認定看護師によるブロック活動の実施
- (2) 研究調査活動
- (3) 総会及び同時開催研修会・交流会

地域貢献活動

自身の経験を活かし、訪問看護認定看護師が社会資源となるような活動を行う。

- (4) 訪問看護ステーションの運営改善相談活動
- (5) 認定看護師による地域向け研修会の開催

組織力強化

組織力を高め社会へ情報発信を行うなど、提言へ結びつけられるような活動を行う

- (6) 広報力の強化

以上の活動によって、訪問看護認定看護師の社会的意義を高め、地域包括ケアシステムの構築に貢献できる人材となり、結果、地域住民がその人らしく最期まで暮らせる社会の構築に寄与する。

3. 事業スケジュール

本事業は、以下のスケジュールで行った

	月	日	内 容
2021	5	1	北海道ブロック会議
		23	北関東ブロック役員会
	6	8	南関東ブロック会議
		29	南関東ブロック会議
	7	8	近畿ブロック会議
		10	北関東ブロック役員会
			関東ブロック委員会
		11	北海道ブロック研修会
		13	東北ブロック会議
		18	中四国ブロック会議、交流会
		25	北関東ブロック役員会
	27	東北ブロック会議	
		関東ブロック委員会	
	8	15	北関東ブロック役員会
		21	関東ブロック委員会
			東海北陸ブロック会研修会
		25	南関東ブロック会議
		27	関東ブロック委員会
	31	東北ブロック会議	
	9	9	近畿ブロック会議
		11	北海道ブロック研修会
		18	南関東ブロック研修会
		23	北関東ブロック「訪問看護相談カフェ 2021」事前打合せ
		25	東北ブロック研修会
	10	7	中四国ブロック「地域向け研修会」
		16	関東ブロック研修会
	関東ブロック委員会		
12	13	近畿ブロック会議	
2022	1	15	北関東ブロック「訪問看護相談カフェ 2021」
			近畿ブロック研修会
			近畿ブロック会議

	1	22	南関東ブロック研修会	
			東海北陸ブロック会研修会	
	2	2	南関東ブロック会議	
			5	九州ブロック研修会
				27

※開催方法については、感染症対策のためオンラインを原則とした

第2章 事業の活動報告

- 1 ブロック活動
 - (1) 北海道ブロック
 - (2) 東北ブロック
 - (3) 北関東ブロック
 - (4) 関東ブロック
 - (5) 南関東ブロック
 - (6) 東海北陸ブロック
 - (7) 近畿ブロック
 - (8) 中四国ブロック
 - (9) 九州ブロック
- 2 研究活動支援 2021年度調査活動報告 - 近畿ブロック-
- 3 コンサルテーション活動 - 北関東ブロック-
- 4 地域向け研修会 - 中四国ブロック-

1. ブロック活動

- (1) 北海道ブロック (ブロック長：古川典子氏)
正会員数 8名



活動名称： 2021年度 北海道ブロック会議

実施日時： 2021年5月1日(土) 19時00分～20時00分

開催方法： Zoom(オンライン型)

参加人数： 計7人 (北海道)

活動内容の報告：

① 活動の目的

2021年度の北海道ブロックの活動の方向性についての話し合い

② 具体的な内容

現在のコロナ禍において、集合しての活動は困難があると想定された。

北海道は会員数が少なく、顔が見える関係性ができている。

各自が事例を提出して、ディスカッションすることでお互いに学びの場とする。

その都度、近況報告なども行い、地域の実情を知り理解することで見聞を広める。

③ 活動の効果

会員数が少ないゆえに全員の顔が zoom で確認できた。

それぞれの地域のコロナ発生状況、対応、ワクチン接種の進展状況などを知ることができた。

活動名称： 北海道ブロック研修会

実施日時： 2021年7月11日(日) 19時00分～20時30分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計7人 (北海道)

活動内容の報告：

① 活動の目的

困難事例についての対処方法を知り、実践に活かすことができる。

② 具体的な内容

困難事例について (セクシャルハラスメント) 事例の資料を事前にメールで共有。研修会当日に、質疑応答をした後に参加者から意見をいただく。事例提供者からの感想。

③ 活動の効果

少人数でセクハラの話の本音で話せたことで、身近な課題だと認識した。倫理にもつながると感じた。

- 話し合いの中で、各人から様々な対応を聞いて、非常に参考になった。
- 日々の業務の中、流れていってしまいがちな事が立ち止まり考えることができた。
- 色々な考えがあるのだと感じ勉強になった。どのような経過であってもセクハラされた看護師の「心のケア」が大切。
- セクハラされた時にとる毅然とした態度やセクハラに対するリスクマネジメントを事業所内で話し合っておく事が必要。どこにでも起こりえること、他人事ではないと職員間で考えておく。
- Zoom を利用しての会議や勉強会などは参加しやすいので、コロナが収束しても継続して欲しい。
- 少人数ゆえの活発な本音の意見交換ができた。

④ その他

次回の開催日の予定。9月11日（土）19：00～21：00
 困難事例検討会：パワーハラスメント（利用者・介護者・他）
 ブロック会議：令和4年度の活動について

活動名称：北海道ブロック研修会

実施日時： 2021年9月11日(土) 19時00分～20時30分

開催方法： Zoom（オンライン型）

参加人数： 計7人（北海道）

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 困難事例についての検討。他認定の意見をきくことで、参加者全員が自分にはなかった気づきを得る
- 令和4年度の活動について

② 具体的な内容

- 1) 認知症の方のカテーテル管理・家族からの虐待
- 2) 拒薬を誤魔化していると思われる双極性障害利用者の対応について

③ 活動の効果

- 1) 膀胱留置カテーテルを自己抜去してしまうため、静止しようとする介護者が虐待をしてしまう。泌尿器科からは一日3回の自己導尿かカテーテル留置、と言われ、静止することが虐待に。都度カテーテルを病院にもらいにいかなくてはならない介護者のストレスがある。
事例提供者より：泌尿器科で導尿3回／日必要と言われ介護者では無理な状況だった。虐待があるゆえの結果、施設入所が早くなったが、夫は落ち込んでいる。夫の介護負担感や妻の言動を見ていけると良かった。
- 2) 体調が悪くなると子供に対してネグレクトや身体的虐待の恐れがあり、保健師が中心となり学校や保育所・訪問看護・ヘルパーと連携をはかり地域全体で支援を行っている。相談支援専門員が「本人から『看護師や病院に薬を飲んでいるように誤魔化すのはもう限界』と言

われた。数カ月前から服薬していない、内服しなくても調子が良い。このことは看護師や病院には言わないで欲しいと言われた」と打ち明けられた。医師が知ったら「もう診ない」と言われる恐れがある（市内に精神科医は1人だけ）

事例提供者より：慌てて動かなくていいと思った。焦る気持ちがあったが経過をみて、慎重に動こうと思う。連携の強化をしていこうと思う。

④ その他

次回事例検討会は、看取りプロジェクトが終了してから12月or1月に。

事例提供者：池田・高橋

令和4年度の北海道ブロック活動計画について～案を提示し了承を得る。

活動名称：北海道ブロック研修会

実施日時： 2022年2月27日(日) 19時00分～21時00分

開催方法： Zoom（オンライン型）

参加人数： 計7人（北海道）

活動内容の報告：

① 活動の目的

- ・ 困難事例を基に意見交換を行い、看護実践能力の向上を目指す
- ・ コロナ第6波に関連した、訪問看護の現場における情報交換をする

② 具体的な内容

- ・ 新人時代の服薬管理に伴う、家族への指導…病院から訪問看護へ転職したばかりのころ、利用者と医師との連携も取れなかったこと。本人と家族、看護師との方向性の違いが生じ、結果訪問中止になってしまった。現在も心にずっと残っているケース。
- ・ 自宅で看取り。粘着気質・記憶違いも多く、怒りっぽい介護者の夫への対応。
月初めの1日に亡くなったことで料金が高いとのクレームや、担当者に「1年後も2年後も電話していいか?」と。訪問看護の勉強をしていると言っていて、その3冊の本を担当者の住所に送ってきたこと。スタッフが「訪問するのが怖い…辞めたい」と不安定になった。その後は管理者が対応していたが「49日が過ぎた。線香をあげに来てくれ」と呼び出された。「死をもって終わりじゃないんだね、その後も看護は続くって書いてあった」……
そんなさなか、猟銃事件など在宅医療の闇のような、この事例とリンクするような感じて、背筋の凍る思いがした。現在進行形のケース。

③ 活動の効果

各地のコロナ状況と訪問看護での対応。現利用者には防護具を着用してのケアを行っている。コロナ陽性の新規受け入れ～実際の数としては少ない。打診があった。スタッフの子供が陽性となるケースが起きていること。日々調整に難儀している。家庭内感染となっている。

④ その他

来年度活動の予定再確認。

研修会アンケートのお願い。



(2) 東北ブロック (ブロック長：平澤利恵子氏)
正会員数 11名



活動名称： ブロック会議

実施日時： 2021年7月13日(火) 18時00分～19時30分

開催方法： Zoom(オンライン型)

参加人数： 計6人 (青森県1人・岩手県2人・宮城県2人・福島県1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

看取り研修事業及びブロック活動について

② 具体的な内容

- ・戸崎理事より看取り研修の概要について説明
- ・ブロック活動は「心不全の方の地域連携について」⇒福島の事例を紹介してもらう

③ 活動の効果

- ・今後の活動の方向性を確認できた
- ・残された課題を確認できた

④ その他

次回会議は7月27日。

議案は①今年度のブロック研修について②次年度の計画及び予算について③看取り研修事業の詳細について

活動名称： ブロック会議

実施日時： 2021年7月27日(火) 18時00分～18時30分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計5人 (青森県1人・岩手県2人・福島県2人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 今年度のブロック研修について
- 2) 次年度の活動計画について

② 具体的な内容

- 1) 心不全認定看護師による「心不全患者の地域連携の取り組みと課題」をテーマにZoom開催とする。開催日は9月の土曜日を検討し、講師に打診する。
- 2) 東北ブロックは広域なため、ブロック会兼研修会とし、年に2回実施する。時期は8月で

Zoom 開催とし、10 月は花巻市で対面を予定する。

③ 活動の効果

活動が具体化できた

活動名称： ブロック会議

実施日時： 2021 年 8 月 31 日(火) 18 時 00 分～19 時 30 分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計 7 人 (青森県 1 人・秋田県 1 人・岩手県 2 人・宮城県 1 人・福島県 2 人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 2022 年度活動計画
- 2) 2021 年度研修会について

② 具体的な内容

- 1) 2022 年度はブロック会議と研修会を 7 月 9 日に仙台開催と 10 月 29 日に花巻開催と決定。状況によっては Zoom ミーティングに変更。
- 2) 9 月 25 日に開催予定の研修会は、心不全患者の多職種連携についての発表を Zoom で開催。10 月に花巻で予定していた研修会はコロナ蔓延のため中止。

活動名称： 研修会「心不全の方の地域連携について」

実施日時： 2021 年 9 月 25 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分

開催方法： Zoom (オンライン型)

講 師： (外部講師) 慢性心不全認定看護師 李民純氏

参加人数： 計 10 人 (青森県 4 人・岩手県 3 人・宮城県 1 人・福島県 2 人) 会員外 4 名含む

活動内容の報告：

① 活動の目的

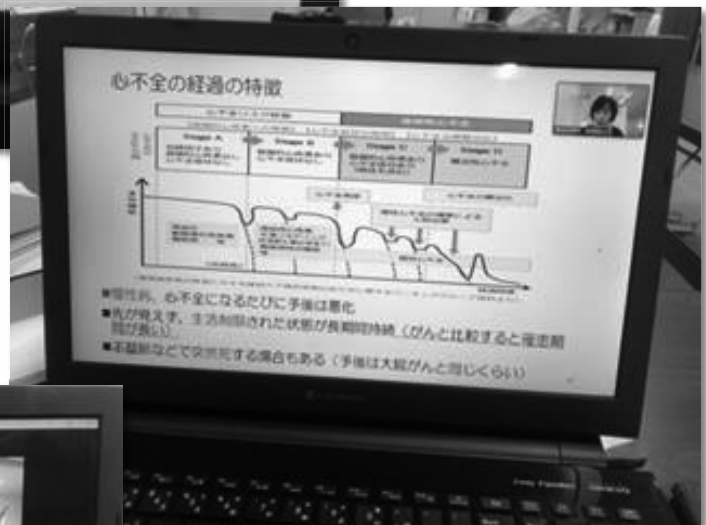
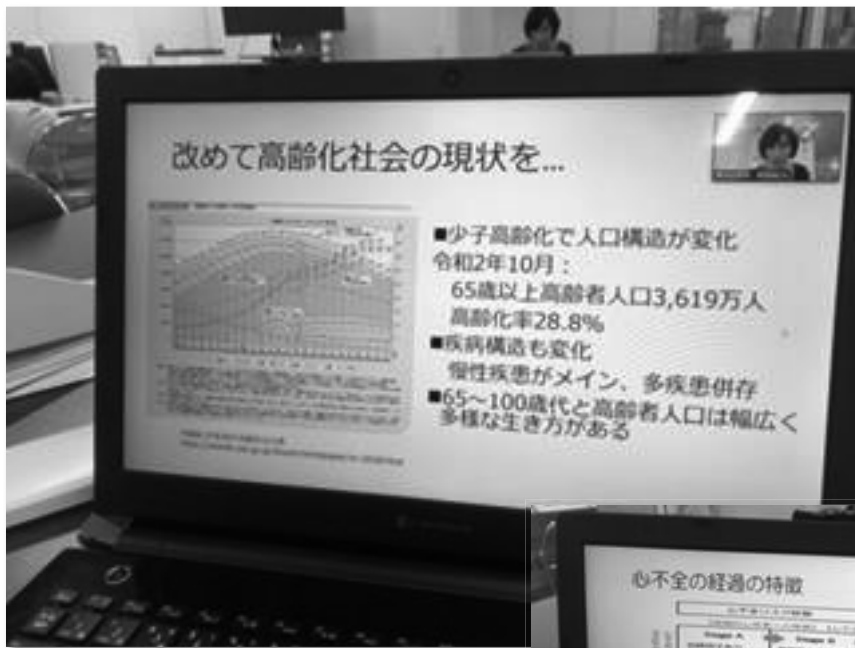
慢性心不全患者様の連携を、数年前から地域を巻き込んで多職種で実践している事例を聴き、所属地域での展開方法等を学び考える。

② 具体的な内容

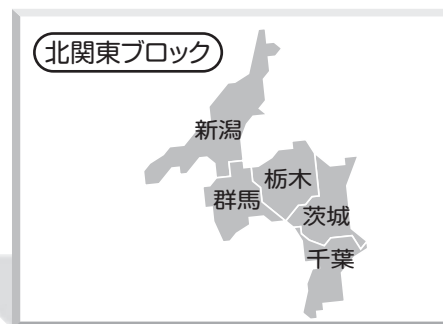
- 心不全に対する国の動きや疾患管理の具体的方法を学んだ。
- 福島県郡山市で「心不全地域連携を考える会」が発足され、独自の心不全チェックシートを作成したり、心不全リハビリを実施している事例を拝聴した。

③ 活動の効果

参加者が、自分の立ち位置から何ができるかを考える機会となった。



(3) 北関東ブロック (ブロック長：杉原幸子氏)
正会員数 35名



活動名称： 北関東ブロック役員会

実施日時： 2021年5月23日(土) 19時00分～20時00分

開催方法： Zoom(オンライン型)

参加人数： 9人 (千葉県6人・群馬県1人・茨城県1人・新潟県1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

ブロック会議開催にあたり、昨年度の活動を振り返り、今年度及び次年度の活動計画案を検討する。役員間の交流を図る。

② 具体的な内容

- 2021年度活動計画案の検討：ブロック会議はzoomによるオンライン会議を基本とし、7月にブロック会議を開催、11月か12月のブロック内研修会・交流会の実施に向ける。(内容については複数の案が出されたが、詳細はブロック会議で決定する予定。会員が学びたいこと、CNとしての活動の幅が広がるような場を作ることで合意した)
- 2021年度活動計画案の検討：これまでの地域向け研修会の経験を踏まえて、千葉県以外での開催に向けて具体化していく。(過去の研修会のバージョンアップ編として、ケアマネと訪問看護師が協働する在宅看取り支援が一案として出たが、テーマを含め詳細はブロック会議で最終決定する予定。)
- その他情報共有：群馬県代表が阿部さんから大山さんに変更。

③ 活動の効果

役員会での結果を会員に伝達し、今年度・次年度活動について6月中に会員から意見を集め、7月のブロック会議で具体化し活動していくことが確認できた。

活動名称： 北関東ブロック役員会

実施日時： 2021年7月10日(土) 19時00分～20時30分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計11人 (千葉県6人・新潟県2人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

役員会とその後のブロック会員の意見を踏まえて、今年度及び次年度の活動計画案を検討する。会員間の交流を図る。

② 具体的な内容

- 2021 年度活動計画案の検討：昨年度同様にブロック会議は zoom によるオンライン会議を基本とし、会議開催 1～2 か月前に参加者に周知する。11 月か 12 月に精神科訪問看護をテーマにブロック内研修会・交流会を実施。（協議会行事などと日程が被らず講師の都合を優先して決定する。）
- 2022 年度活動計画案の検討：群馬県での開催を主軸に今後検討。（ハイブリット開催、訪問看護師と介護支援専門員との連携・協働に医療従事者等も含め、広く連携・協働について考える。規模などは開催県会員の意見を基に詳細を決定する）

③ 活動の効果

今年度、次年度活動の概要が決定できた。4 名の新規加入者が参加、オンラインではあったが交流できた。

活動名称： 北関東ブロック役員会

実施日時： 2021 年 7 月 25 日(日) 19 時 00 分～20 時 30 分

開催方法： Zoom（オンライン型）

参加人数： 計 4 人（千葉県）

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 「在宅看取りを実践できる訪問看護師の育成」事業運営が決定したため、ブロックメンバー6 名を選定し、活動概要（今後の活動の方向性）を整理する。
- 上記に伴い、前回のブロック会議で決定した次年度ブロック活動について一部見直す（方向性、方法などを再確認する）

② 具体的な内容

- ブロックメンバー：準備期間が短いこともあり北関東から広くではなく、研修会開催経験のある千葉県会員を主軸に人選し 6 名を選出。役員が個別に依頼し承諾を得ることにした（メンバーは山橋、山田、佐々木ま、英、高橋あ、西山で快諾あり）。佐々木理事、杉原ブロック長はメンバーには入らないが、会議等には参加しメンバーをサポートしていく。8 月中にコアメンバー（大桐）を含む 9 名で見取り研修会ライングループを作り、情報共有・意見交換していくことになった。
- 看取り研修会を 11 月に開催（予定と）することから、ブロック活動としてのブロック内研修会は 12 月に延期とする。ブロックメンバー以外の千葉県会員は見取り研修会に協力し活動していくため、今年度の活動は千葉県以外の会員を主軸に準備・実施していくこととした。

③ 活動の効果

新たな事業である看取り研修会の活動方針と今年度活動の修正ができた。

活動名称： 北関東ブロック役員会

実施日時： 2021年8月15日(日) 19時00分～20時00分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計7人(千葉県6人・新潟1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 「在宅看取りを実践できる訪問看護師の育成事業」「コンサルテーション事業」の追加に伴い、今後のブロック活動について修正する。
- 新規活動「コンサルテーション事業」に関する情報を共有し、活動の方向性を確認する。

② 具体的な内容

- 今年度、見取り研修とコンサルテーション事業実施のため、前回ブロック会議で予定していた今年度の活動(精神訪問看護関連研修)は次年度に持ち越しへ。
- 次年度群馬県で開催予定の研修会については、県会員の意見を確認し、内容や規模などを仮決定し予算化していく。
- 今年度コンサルテーション事業について、8月中に昨年度開催県の具体的状況など情報収集し共有、10月中にチラシ作成、11月参加者募集し、1月15日か22日あたりの午後でZoom予約が可能な日にちで開催する。

③ 活動の効果

コンサルテーション事業の活動方針を含め、今年度活動の修正ができた。

活動名称： 訪問看護相談カフェ 2021 事前打合せ会議

実施日時： 2021年9月23日(木) 19時15分～20時30分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計4人(千葉県3人・新潟県1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 看護相談カフェ 2021・個別 Web 相談会 2021 に関する情報共有
(メンバー確認と自己紹介、前年度実施内容の確認、各自手持ち資料の確認、実施に際する疑問点・不明点の洗い出し、今後の準備方針など)

② 具体的な内容

- メンバー：佐藤富子、松井美壽子、佐々木ゆかり、杉原幸子(佐々木真弓*参加者数で追加検討)
- 昨年度実施内容確認：不足資料は相互で送付し合い開催をイメージして詳細を再確認することにした。
- 今年度計画：カフェ 1/15 相談会 1/29 に開催。配信場所は今後検討。新入職者など募集条件は制限しないが、参加したいと思わせるようなチラシの文言を考えていく(杉原作成の原案を基

に意見交換予定 10 月中に作成し 11 月には参加を募集、参加締め切りは 12/10 とする)。昨年度アンケート結果の詳細など問い合わせ（佐々木）。アドバイザー 2 名は事務局提出用必要書類を準備する。次回 10 月中旬に（状況で急ぎょカメラオンができる利便性があり）ラインによる Web 会議を予定。

③ 活動の効果

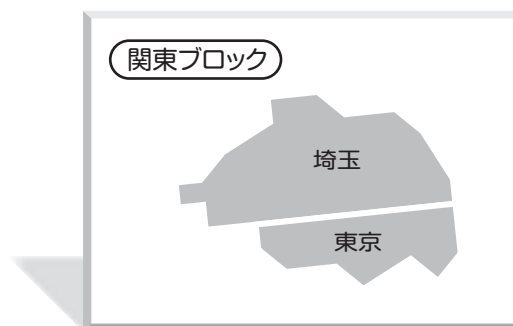
カフェ・相談に関する活動を進めるために必要な情報の共有と確認事項の共有ができた。

④ その他

前年度事業経験者と今年度メンバーの合同会議を検討したが、会議日程を合わせるのが難しいとの意見があり、佐々木・杉原と前年度関係者で開催し、経験者から助言をいただき準備していくことになった。

※訪問看護カフェ実施報告は、3 コンサルテーション活動 にて報告。

- (4) 関東ブロック (ブロック長：井上京子氏)
正会員数 61名



活動名称： 関東ブロック委員会

実施日時： 2021年7月10日(土) 11時00分～11時30分

開催方法： Zoom(オンライン型)

参加人数： 計5人(東京都3人・埼玉県2人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 定時総会報告
- 2) 今年度の活動について

② 具体的な内容

- 1) 2021年6月12日定時総会 研修の報告
- 2) 今年度の活動について
 - 10月16日(土曜)実施について具体化「精神訪問看護 WRAP療法について」具体化
 - そのほかの年間研修計画 会員獲得への働きかけについて

③ 活動の効果

- 1) コロナ禍での職員のメンタルヘルスについての視点と実際の評価や対応について学べた
 - こころの健康維持にセルフケアは欠かせない(積極的にできることに目を向ける)
 - COVID19の基本は、相手の思いを受け止め ねぎらい、共に考える姿勢を示し、相手のニーズに寄り添うこと
 - 普段から人間関係のほころびや組織内の課題が COVID19によって顕在化することで苦しい状況となることもあるが、一方では組織の価値観、大切にしている音を共有する機会になっている
 - 長期化するいま、それぞれの心身の健康維持が何よりも重要でピアサポートが重要となってくる
- 2) ①日程は10月16日(土曜)時間13～17時予定
オンラインかハイブリットにするか? 会場をどこにするか? 勉強会の具体的内容について、藤田先生との窓口になっている五十嵐委員から直接 講師の藤田先生とどのようにするか話していただく。
講師依頼文：井上
研修申し込みはグーグルフォームズで行う：山田
お知らせの連絡先：井上の携帯
お知らせ方法：会員メール
非会員：日本看護協会認定一覧から名簿を作成：埼玉→佐伯 東京→山田 井上
関東ブロックの活動報告：廣川

一斉メール：事務協に願います

2) ②12月頃の交流会未定

- 2月頃の研修にするか？ほかの方法をとるかは引き続き検討課題
- 次年度の計画をここ考えておくこと

活動名称： 関東ブロック委員会

実施日時： 2021年7月27日(火) 20時00分～21時30分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計4人 (東京都3人・埼玉県1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

10月16日開催予定の研修準備

② 具体的な内容

- 1) 配布するお知らせのたたき台を確認する
- 2) 研修方法 完全オンラインにする 講師はどうするか？
- 3) 参加申し込み方法について
グーグルホームでの作成。名前・会員番号・ブロック名・アドレス(ZOOMで使用する)・電話番号
精神科訪問看護療養費算定の有無
- 4) 申し込み締め切り 10/9
開催1週間前にはリマインドメールをおくる
- 5) 住所録の確認
- 6) お知らせ配布
- 7) 講師料は規定。お手伝いして下さるファシリの方への謝礼はどうするか事務局に確認
- 8) 周知方法
一斉メールを会員におくる、非会員には名簿作成し郵送する、ホームページから告知をお願いする
- 9) ポイントはつけられないのか？ 今の体制では難しい
- 10) オンラインで開催するが発信元をどこにするかは、会場探しを行う

③ 活動の効果

10月16日の研修の準備が整えられる

活動名称： 関東ブロック委員会

実施日時： 2021年8月21日(土) 9時00分～10時00分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計5人 (東京都2人・埼玉県3人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

10月に開催する研修の準備
役割分担した進捗状況

② 具体的な内容

- 1) 配布物（研修のお知らせと 勧誘と今年度の予定について）最終は8月26日ごろまでに発注
印刷り上がる予定：五十嵐 廣川
- 2) 郵送：井上
- 3) 受付：山田
- 4) 会場：彩の風ステーションを借りる：佐伯
- 5) 当日の内容について最終確認
藤田講師と直接確認する 役員との顔合わせを行う 日程調整：五十嵐

③ 活動の効果

10月16日の研修が予定どおり実施できる

活動名称： 関東ブロック委員会

実施日時： 2021年8月27日(金) 18時30分～19時30分

開催方法： Zoom（オンライン型）

参加人数： 計5人（東京都2人・埼玉県3人）

活動内容の報告：

① 活動の目的

10月に開催する研修の準備
講師の先生と打ち合わせと準備

② 具体的な内容

藤田先生と当日の流れ確認
精神科看護の基本を講義したあと 事例を通して WRAP について学ぶ
ブレイクアウトで各グループに分かれグループワーク
その際、各グループにファシリが必要。ファシリは藤田講師が参加者数に合わせ、お手伝いをしてくれる人を募ってくれ 当日手伝ってくれる予定。そのため、参加者数を少し早めに教えてほしい。
Zoom の操作等精通している方も手伝ってもらえる予定のため、研修開始後は共同ホストとして協働する。
講師は自事業所から講義行う予定

告知した後、1週間前にリマインド
資料も一緒に送付
委員は佐伯さんの事業所「彩の風ステーション」集合し、入室管理を行い、研修に参加する。

お借りする機材について検討 カメラとスピーカーフォン

③ 活動の効果

WRAP という視点での介入を学ぶこと、体験することで精神科訪問看護の幅と質をたかめる。
グループワークを通して他地域の認定看護師と意見交換を行う。

活動名称： 関東ブロック研修会

実施日時： 2021年10月16日(土) 13時00分～17時30分

開催方法： Zoom (オンライン型)

(外部講師) 藤田茂治先生

講師： (サポートファシリテーター) 片山尚貴氏・菅沼卓也氏・林紫乃氏
南香名氏・武石美知子氏

参加人数： 計21人 (関東13人・南関東1人・北関東1人・近畿4人・中四国1人
東海北陸1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

精神科訪問看護と WRAP という取り組みについて学ぶ

② 具体的な内容

精神科訪問看護の基本再学習

WRAP(元気回復プラン)という取り組みについて知識を得る

③ 活動の効果

- ・藤田先生のステーションの幅広い取り組みを知ることができた
- ・精神科訪問看護の振り返りができた
- ・まずは利用者との関係性の構築に主眼を置きながら、道具(自分を元気にする)の話ができる関係につなげていきたいです
- ・考え方や価値観は変えられないが行動をサポートすることができる。今まで考え方を考えさせるような関わりを主にしていたと思う
- ・精神科訪問看護に対する抵抗感や苦手意識が薄れた気がした
- ・グループワークが楽しくもっと時間をおいいたきたい、WRAPの第2弾も希望したい
- ・参加者が少なかったのは 精神科訪問看護と表示したことで精神科に特化したステーションが参加すると思った方が多かったのかもしれない
- ・研修終了してみると WRAP は 精神疾患の患者だけに特化するツールではなく、精神科の患者さんだけでなくその他の利用者、看護師として働く私たち自身にもとても有効なツールだと感じました。自己研鑽と交流の目的は得られたと思う

④ その他

- ・画面の表示名の変更がうまくできない方がいる、研修の途中で 申告なくいなくなる方がいる(チャットでの一言記載)など、オンライン上でのマナー的なこともふくめ事前のオリエンテーションで説明できればと思う。講義からグループワークに移動する間の休み時間の間に 連絡

なしでいなくなった参加者がおり、事前にグループ分けした意味がなくまた、講師に対しても失礼になった

- ・オンライン研修が多い中、グループワークを取り入れたことは良かった
- ・受け身な研修だけでなく、意見交換など交流に重きを置いた活動の場もあってもよいかもしれない
- ・WRAP をわかっている ファシリテーターの方が各グループについていただけていることで、グループワークになってからもスムーズに行えた。
- ・ZOOM に慣れてきたようで、開始ギリギリにエントリーされる方が多くなった。しかし、何度告知しても表示名を変えることができない人がいた
- ・今回 ZOOM の運用を 講師側のスタッフがやっていただけるとのことをお願いした経緯があったが今後は主催側でも 問題なく実施していかなければならないと思う

一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会 関東ブロック

「精神科訪問看護の事例とWRAP」

講師 藤田 茂治 先生

株式会社メンタルサポートbelief plus 代表取締役社長
訪問看護ステーションリすたーと 所長
埼玉県精神科アウトリーチ研究会会長

開催日：2021年10月16日(土)13時～17時
受付開始12時40分より

ZOOM開催

1部 講義
2部 グループワーク

対象者：訪問看護認定看護師協議会会員のみ
参加費：無料
申込締切：2021年10月6日(水)
申込はこちらから→ <https://bit.ly/3ysGj8s>



精神疾患の利用者様や、ご家族が精神疾患をお持ちのケースで悩んでいませんか？今回の研修は、先生がたくさん経験された事例を通して精神科訪問看護について、「WRAP」について学びます。皆様のご参加をお待ちしております。

W
R
A
P
PLAN

WRAPとは：リカバリー(元気回復)に役立つツールです。アメリカの精神障害をもつ人たちによって作られ、日本では「元気回復行動プラン」と呼ばれています。自らがデザインする「自分のトリセツ(取扱説明書)」

頂いたメールアドレス宛に研修会が近づきましたら、研修会のURLと資料を掲載した招待メールをお送りします。招待メールが届かない場合は、関東ブロック 井上 (090-8940-3851)までお問合せください。

Supported by
日本
財団
THE NIPPON
FOUNDATION



【関東ブロック研修会 参加者アンケート結果】

参加者 21人 回答回収 20件 (回収率 95%)

1. 講義内容について

良かった 19名

ふつう 1名

2. 講義内容について

- 日々の看護に活かせそうです。熟女パブと一緒にいく看護も奥が深くて感動しました。
- まずは関係性の構築に主眼を置きながら、道具の話ができる関係につなげていきたいです。
- WRAP とはケアを提供する側である自分のケアでもあることに気づいた。信頼関係を作る第一歩ですね。
- 緊急訪問で最後にしか参加できませんでしたが、少しでも参加できてよかったと感じました。
- グループワーク時間が多い方がもっとよかった。第二弾希望します。
- 講義もグループワークも楽しく、あっという間に時間となりました。精神科訪問看護に対する抵抗感や苦手意識が薄れた気がしました。もっとたくさんの訪問看護師が wrap を体験することができると思います。
- 考え方や価値観は変えられないが行動をサポートすることができる。今まで考え方を変えさせるような関わりを主にしていたと思う。あっという間の時間でした。自分自身、道具やいい感じの自分の項目がすくなかったのがショックです。増やしていきたいと思えます。まずは自分で WRAP やってみたいとおもいます。ありがとうございました。
- たいへん参考になり、学びが多かった。
- 導入のところだったと思います。もう少し聞きたかったです。
- 基調講演も事例検討も思いが伝わり、とてもよかったです。
- 実際に WRAP の研修に参加してみたいです。精神科の利用者さんの関心に寄り添う看護をしたいと思いました。
- 講義の資料が多かった。前半しか参加出来ませんでしたが、資料を読み上げている内容だったので、GWまで参加できたら、もうすこし深められたのかな？と感じました。

3. 運営について (開催の時間帯 長さ)

良かった 16名

ふつう 3名

期待と違った 1名

4. 運営について (事前の案内 配布時期)

良かった 15名

ふつう 5名

期待と違った 0名

5. 運営について (Web ミーティング環境について)

良かった 18名

ふつう 2名

期待と違った 0名

(コメント)

- 企画、準備等本当にありがとうございました。
- 本日はまず、導入でしたので、第2段を聴きたいです。
- 途中参加でも、グループワークに参加しやすい雰囲気迎え入れてくださり、ありがたかったです。
- 研修のテーマはとても興味がありました。運営と細やかでよかったです。ありがとうございました。最後まで参加出来なくてすいませんでした。
- お疲れ様でした (3名)

6. 次回以降に聞いてみたいテーマ

- WRAP 第二弾希望します。
- WRAP を今一度学びたい。
- 慢性呼吸器疾患のエンドオブライフケア
- 自己決定支援
- 是非 WRAP の第2弾をお願いいたします

活動名称： 関東ブロック委員会

実施日時： 2021年10月16日(土) 17時00分～18時00分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計5人 (東京都3人・埼玉県2人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

本日開催した研修の反省会

次回の活動内容

② 具体的な内容

- WRAP をわかっている ファシリテーターの方が各グループについていただけていることで、グループワークに入ってもスムーズに行えた
- 講義からグループワークに移動する間の休み時間の間に 連絡なしでいなくなった参加者がおり、事前にグループ分けした意味がなくまた、講師に対しても失礼になった
- ZOOM に慣れてきたようで、開始ギリギリにエントリーされる方が多くなった
- 表示名を変えることができない人がいた
- 今回 ZOOM の運用を 講師側のスタッフがやっていただけとのことでお願いした経緯があったが今後は主催側でも実施していかなければならないと思う

③ 活動の効果

WRAP という視点での介入を学ぶこと、体験することで精神科訪問看護の幅と質をたかめることができた。

グループワークを通して 他地域の認定看護師と意見交換を行うまでは時間的余裕がなかったが、私たち自身の元気回復プランの必要な道具(元気になるための)を知る機会となり、自信が元気に健康に働くためにもつながる内容だった。

本日は導入部分で今後 WRAP の第2弾の開催をお願いしてもいいのでは？

参加者が少なかったのは 精神科訪問看護と表示したことが大きかったのかもしれない。

研修終了してみると WRAP は 精神疾患の患者だけに特化するツールではなく、精神科の患者さんだけでなくその他の利用者、看護師として働く私たち自身にもとても有効なツールだと感じました。

次回の活動内容：看取りの研修もあり、今年度の活動未定

(社) 日本訪問看護認定看護師協議会

NEWS

Supported by THE NIPPON 財団 FOUNDATION

TOPICS

入会案内 研修開催のお知らせ

関東ブロック 2021.8 発行

日本訪問看護認定看護師協議会

2009年8月に全国の訪問看護認定看護師が「実践」「指導」「相談」の経験・知識を持ち寄り、相互の交流を図ることによって、より一層、在宅医療・看護・ケアの質の向上と専門性を高めていけるよう「日本訪問看護認定看護師協議会」として設立。
2014年10月には「一般社団法人化」され、更なる発展を目的としています。

ブロック活動

全国を9ブロックに分け、それぞれで訪問看護認定看護師の交流や自己研鑽ができる様に活動しています。関東ブロックの今年度の活動では、研修会を企画しています。詳細は別紙のチラシを確認ください。コロナ禍で実際に皆さんと会っての研修はまだまだ無理そうなので、Webセミナーを企画いたしました。事例を通して、一緒に考え学び、英気を養いましょう！

事務局 公益財団法人日本訪問看護財団内

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5階
電話：03-5778-7008 FAX:03-5778-7009
E-mail: kyogikai@jvnf.or.jp
ホームページアドレス http://www.jvnf.or.jp/post_13.htm
《関東ブロック委員》
ブロック長：井上京子（東京） ブロック委員：山田富恵（東京）
佐白聡子（埼玉）、五十嵐いずみ（埼玉）
ブロック理事：平野智子（東京）、廣川直美（東京）

入会方法

入会のお申込みは「公益財団法人日本訪問看護財団ホームページ」内のバナーをクリックして「入会のご案内」からお申込み下さい。
正会員の入会金 5,000円 年会費5,000円 合計10,000円です。
2年目以降は年会費 5,000円です。
入金確認後正会員とし登録され、会員証がお手元に届きます。
研修の際は会員証をご持参ください！

今年度活動案内

今年度の訪問看護認定看護師協議会では、様々な活動が計画されています。日本財団様からの連携金では「在宅看取りを支援できる訪問看護師の育成」事業について、全国9ブロックで訪問看護認定看護師たちが地域の訪問看護師に向け研修会を開催致します。
協議会会員の皆様は立候補や推薦者から委員や講師を招き、自宅で懇話の時まで過ごしたい方々の応援した事例などを紹介し、地域の訪問看護師の皆様に実践力をつけていただく一助になること、国民の8割が希望していると言われる、「懇話まで家で過ごしたい」という希望を叶えられる地域作りのへの取組を実施していきます。
また、地域向け研修では延期になっていた、沖永良部島での「看取り」についての研修を島の自治体と医師会の方々と一緒に企画運営をし、今年度開催する予定です。
全国での研修開催については、ZOOM等で開催されます。興味のある研修は、どのエリアでも参加可能なことが多いです。是非、協議会のHPをご覧ください！

令和3年度 研修会のお知らせ

開催日予定日：令和3年10月16日(土) 13:00~

テーマ：精神科看護の事例から学ぶWRAP

講師：訪問看護ステーション りすだーと

所長 藤田 茂治 先生〈看護師・WRAPファシリテーター〉

*研修の経緯については別紙案内を確認下さい。

学会・研究会 ～令和3年 9月以降開催予定～

★日本地域看護学会 第24回学術大会
オンデマンド配信：8/27~9/26 ライブ配信：9/11・12

★第11回日本在宅看護学会学術大会
オンデマンド配信：11/6~11/21 ライブ配信：11/13・14

★第3回日本在宅医療連携学会大会
ハイブリッド開催（予定）11/27・28

★第62回日本看護学会学術大会
オンデマンド配信：11月下旬から ライブ配信 日本在宅
詳細は各学会のホームページをご確認ください。コロナ禍により突然変更になってしまうこともありますので、ご注意ください。

2021.8 日本訪問看護認定看護師協議会 関東ブロック

～関東ブロック News Letter～

24

(5) 南関東ブロック (ブロック長：徳重小十代氏)
正会員数 25名



活動名称： 南関東ブロック会議

実施日時： 2021年6月8日(火) 16時30分～17時10分

開催方法： Zoom(オンライン型)

参加人数： 計4人 (長野県3人・神奈川県1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 本年度役員顔合わせ
- 2) 今年度のブロック活動について

② 具体的な内容

- 1) ブロック理事(伊藤みほ子)、神奈川県担当役員(山本淳子)、長野県担当役員(高橋光子)、ブロック長(徳重小十代)で自己紹介を行う。
- 2) ブロックの活動として、今年度は交流会を予定とする。内容については日頃悩んでいることや情報交換の場にしたらどうかと意見あり。具体的には次回の会議で決めるとした。研修会等はどうか次回の会議で検討とする。

③ 活動の効果

初回の会議であり顔を見て話をすることで親しみが持てた。互いに協力をしてブロック活動を行っていく心構えができた。

活動名称： 南関東ブロック会議

実施日時： 2021年6月29日(火) 16時00分～17時20分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計4人 (長野県3人・神奈川県1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 6月12日理事・ブロック長合同会議の報告
- 2) 今年度のブロック活動について具体的に内容を検討

② 具体的な内容

- 1) 6/12理事・ブロック長合同会議の報告
- 2) 今年度は9/18交流会、1/22研修会を計画。いずれもZoomで行う予定。交流会については郵送でお知らせをする。その際にブロック名簿作成の協力を得るためにメールアドレス

確認と1月研修内容等のアンケートを行う。そのアンケートをもとに8/24の会議で詳細を決める予定。1月の研修についてはできればブロック内の会員が、講師を担当できるように希望をアンケートにて確認していく。

③ 活動の効果

今年度のブロック活動予定が立てられ、会員の方々に有意義なものであるよう役員の協力体制の強化になった。

活動名称： 南関東ブロック会議

実施日時： 2021年8月25日(水) 16時00分～17時00分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計3人 (神奈川県1人・長野県2人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 2021年9月18日ブロック交流会の詳細
- 2) 2022年1月22日ブロック研修会内容の検討
- 3) 2022年度活動計画作成について検討
- 4) ブロック会員の連絡方法について検討

② 具体的な内容

- 1) 2021年9月18日ブロック交流会について：参加者9人(役員4人含む)、神奈川県4人、長野県5人の参加予定。長野県役員は当日、看護協会に9:30集合してZoom準備行う。10:00～開始。①テーマ「新型コロナウイルス感染症対応の現状」30分間位②2022年1月22日の研修内容について意見を聞く。ブロック内会員より講師依頼をお願いする。③来年度の研修内容についても希望を聞いていく。
- 2) 2022年1月22日ブロック研修会内容について：9月18日の交流会で意見を聞き詳細を決めていく。
- 3) 来年度の活動計画について：ブロック会議は定期では3回/年で計画するが研修等の計画により会議回数を検討していく。9月18日の交流会で意見を聞き計画していく。
- 4) ブロック会員の連絡方法について：ブロック交流会のお知らせ時に、県の役員内でメール等の閲覧の許可をお願いしたが返信があったのが14名(21名中)。今後、許可を得た方は県役員からメールでの連絡等をお願いする。その他の方々は郵送で連絡していくとする。

③ 活動の効果

今後の活動内容について大まかではあるが計画ができた。

活動名称： 南関東ブロック研修会

実施日時： 2021年9月18日(土) 10時20分～12時20分

開催方法： Zoom（オンライン型）

参加人数： 計 8 人（神奈川県 3 人・長野県 5 人）

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 日頃の実践活動をとおして、現状や困りごとを話し自身の今後に役立てる
- ブロック内の交流を図りつながりを強化する

② 具体的な内容

1) 「新型コロナウイルス感染症対応の現状」 10:20～11:30

実際に感染した方への訪問を行っているステーションもあれば濃厚接触者になった利用者への訪問実施しているステーションだったり、まだその経験はないステーションもあった。実際に感染した方への訪問を行っている会員からはその実践をいろいろ聴いた。そのステーション周辺の訪問看護に携わっているところでは、感染者への訪問に行かない訪問看護もあり、対応するステーションが大変になっていくのはやるせないという話もあった。また、看護師が感染してしまい、いろいろな経緯があるなか賠償の問題も突き付けられた話もあった。都会ではそのような賠償問題やスタッフ確保などで訪問看護やデイ等が潰れてしまったところもあると話があった。第 6 波がきて在宅療養の感染者への訪問が増える可能性もある。対応したいが現実にはスタッフの確保が難しいのが現実という話もあった。感染が分かっている方に訪問に行く場合より、それ以外での訪問の方が本当は怖い。感染対策をしっかり行って対応していこうと話があった。

2) 2022 年 1 月 22 日ブロック研修会内容について

会員のステーションに 1 年訪問看護の勉強のため 30 歳代の若い看護師が就職した。その方が 1 年後にステーションを立ち上げた。若い感性がとても新鮮で若い感覚を受け入れていくのも必要ではないかと話があり。若い看護師の起業家についての話しを計画していくとなった。

3) 来年度の活動計画内容についての希望…研修会 1 回/年内容は「家族看護」「臨床推論」「特定看護師の活動状況」など。交流会 1～2 回/年で計画していく。

③ 活動の効果

今後の役立つ内容であった。今年度の研修と来年度活動内容について計画ができた。

活動名称： 南関東ブロック研修会

実施日時： 2022 年 1 月 22 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分

開催方法： Zoom（オンライン型）

講師： (外部講師) 東 智洋 氏
(内部講師) 森元 陽子 氏

参加人数： 計 12 人（神奈川県 7 人・長野県 5 人）

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 先駆者の実践を知り、今後の活動に生かす
- 事業拡大や人材確保等への希望や計画に生かす
- ブロック内会員の交流を図り、つながる

② 具体的な内容

<テーマ> 訪問看護ステーションの多角経営と人材確保

<講師> (株) モリモリ みんなの訪問看護リハビリステーション 代表 森元 陽子氏

(株) D'EFFORT ここから訪問看護リハビリケア 代表 東 智洋氏

テーマの内容で実際に多角経営をしている二人の講師の講演とディスカッション

③ 活動の効果

アンケートにて別途報告



一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 南関東ブロック



南関東ブロック研修会

4つのステーションをはじめ、地域に密着した事業展開で、幅広く活躍されている森元氏。そしてその森元氏が「常識にとらわれず、目からうろこ！皆にもびっくりしてもらいたい！」と絶賛する東氏。今回は、そんなお二人からご講演頂きます。ふるってご参加をお願いします！！

- テーマ **訪問看護ステーションの多角経営と人材確保**

- 講師 (株) モリモリ
みんなの訪問看護リハビリステーション

代表 **森元 陽子 氏**

(株) D'EFFORT
ここから訪問看護リハビリケア

代表 **東 智洋 氏**

- 日 時 令和4年1月22日(土) 13:00~15:00
- 開催方法 オンライン研修 (Zoomミーティングを使用)
- 対 象 訪問看護認定看護師協議会 南関東ブロック会員
- 申込方法 下記URLもしくはQRコードから申し込みフォームに必要事項を入力し送信ください。

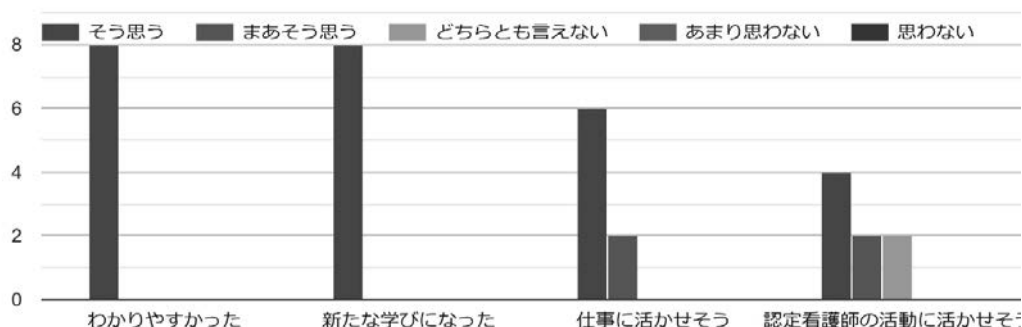
<https://forms.gle/pHQrKxKxKkgCochVUg7>



<問い合わせ> 一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会 南関東ブロック
訪問看護ステーションあゆみ 担当：徳重 〒381-0023長野県長野市風間1100-415
TEL (026)214-2987 FAX (026)214-2988 Email: ayumi2798111@yahoo.co.jp

2021年1月22日（土）「訪問看護ステーションの多角経営と人材確保」研修アンケート結果

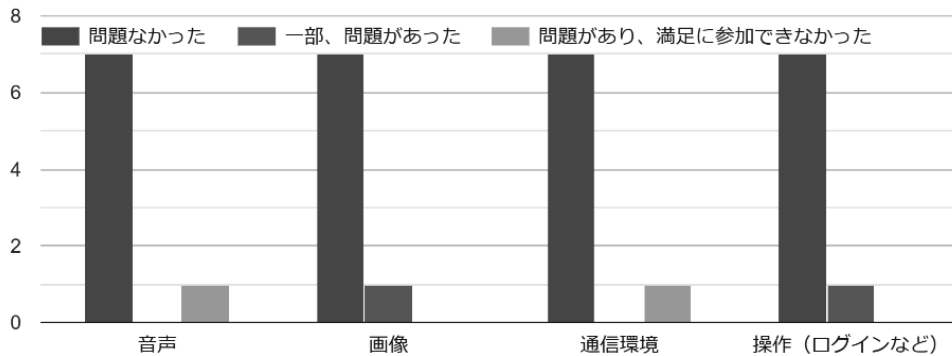
1. 研修の内容はいかがでしたか？



2. 研修のご感想・ご意見などお聞かせください。

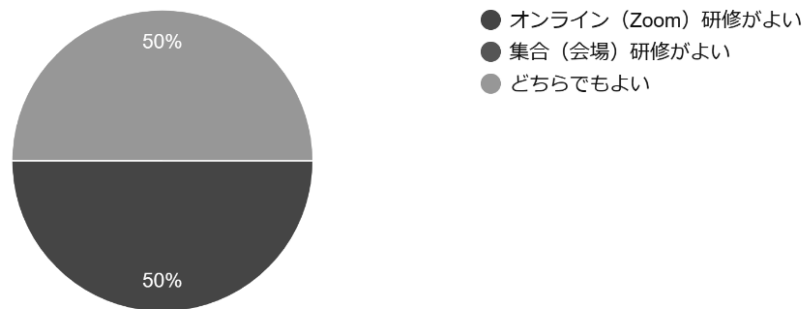
- ◆ものすごくよかったです！次の一手を考えることができたと思うのです。『覚悟』は、やはりどの立場でも必要なことだと思いました。また、自身の置かれている立場で考えることを一人でやるのではなく、誰かと話をするのもものすごく必要だと再認識しました。ほんとにありがとうございました。何回も聴きたい講義です。
- ◆思ったことや、考えたことは発信してみようかな。と、元気をもらった講義でした。ありがとうございました。
- ◆電波状態が悪くてご迷惑をおかけしました。すみませんでした。すごく興味深い御話で楽しかったし、ワクワクしました。もう、楽しいことしかやりたくないの、仕事を楽しみを感じるためにはどうしたらいいのかなと考えています。貴重なお話をありがとうございました。
- ◆まさに目からウロコで、自分の視野が狭いことに気づいた研修でした。講師のお2人のように、既成概念に囚われず、柔軟に、大胆に考えて行けるようになりたいと思いました。ありがとうございました。
- ◆多角経営について内容が斬新で、目からウロコでした。次世代の人材を育成するには、相手の気持ちを知ろうと努力すること。SNSを活用した人材確保など、今後は自分のステーションの強みをアピールすることが重要であり、参考になりました。
- ◆いろいろな事業に取り組まれていることに、パワーを感じました。大変なこともあると思いますが、楽しく事業を展開しているように思えました。貴重なお話ありがとうございました。
- ◆今までにない切り口の研修で新鮮でした。管理者の方や、個人経営者の方へは「なるほど」といった内容でした。一方でサクセスストーリー的にとられてしまうと、逆に考えさせられすぎて落ち込んだり、感動だけで終わってしまうかもしれない危惧があるかも、と思ってしまいました。私は元気をいただきました。
- ◆新しい感覚に触れることができた。見本にさせて頂ければと思った。

3. Zoomは問題なく使用できましたか？



4. 研修の開催方法はどちらがよいですか？

8件の回答



5. 今後のブロック活動について、ご意見やアイデア・研修テーマなどお聞かせください。

- ◆ 訪問看護に興味を持ってもらえるような活動を、みなさんで考えたい。
- ◆ 今日のような、スキルアップにつながる交流会形式もとてもよかったと思います。
- ◆ 今回のような研修は今までになかったので、面白かったです。 経営の話や、SNSの方法などの研修もまた面白いかも。
- ◆ 人材育成について BCP策定 倫理研修 など希望します。
- ◆ 今回の講師の先生の話に、自分に気づく研修を入職時している話がありましたが、 先ず、自分のことを知ることや、スタッフにも気づいてもらう方法など学びたいと思いました。

活動名称： 南関東ブロック会議

実施日時： 2022年2月2日(水) 18時15分～18時50分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計3人 (神奈川県1人・長野県2人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 2021年度の活動の振り返り
- 2) 次年度役員について
- 3) その他

② 具体的な内容

- 1) ブロック会議3回実施。交流会や研修前に開催し話し合いができ、交流会や研修がスムーズにできた。ブロック会議の回数は適当であった。1/22の研修は当日の欠席者もあり参加人数は少なかったのが残念であった。Zoom研修等は非会員だと参加費の徴収が面倒である。できれば会員を増やして、貴重な研修のため参加者数が増えるようにしたい。
- 2) 次年度は今年度の役員はあと1年任期がある。今の役員が2023年度は総入れ替えになってしまい、2023年度の計画を立案してもそれを引き継ぐことが難しくなる。できればブロック長になる方は、1年は旧役員と一緒に活動し翌年にブロック長で会を引き継いでいけるようにした方が良いという意見あり。山梨県の会員数が少ないため役員は出ていないので、神奈川県枠を2人として一人役員になってもらえないか声かけをしてみる事となった。
- 3) 年間計画で研修を計画しているが、是が非でも研修でなくても会員のみinnで研究をやるとかコンサルテーションをやるとかの活動でも良いのではという意見あり。次回のブロック会議でそのあたりをもう一度検討していくこととなる。

③ 活動の効果

次年度へ生かせる内容であった。

④ その他

山梨県の役員について、ブロック長は他県で受けるが役員はお願いして、会には参加してもらえないかももう一度声かけをしていくこととなった。

(6) 東海北陸ブロック (ブロック長：近藤佳子氏)
正会員数 107名



活動名称：東海北陸ブロック会研修会 (WEB 開催)

実施日時： 2021年8月21日(火) 13時00分～16時30分

開催方法： Zoom(オンライン型)

講師： (外部講師) 藤崎和彦氏 (岐阜大学医学部教育開発センター長
バーチャルスキル専門教授)

参加人数：計45人 (石川県1人・岐阜県7人・三重県5人・静岡県4人・福井県1人
愛知県27人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 理事会・ブロック長会報告で協議会の最新情報、動向を知る
- 2) 講義を聞き、活動実践でのコミュニケーションを振り返り今後に活かす
- 3) グループワークにより交流をはかる

② 具体的な内容

- 1) 『対象者の行動変容につなげる医療コミュニケーション』について講義を受ける
- 2) 動画で看護師、患者の人工肛門増設手術前の面接場面をみて、①質問法、②応答法、③踏み込み法を個人ワークで考え、その後、20分間6～7人のグループに別れ場面やコミュニケーションについて意見交換した
- 3) グループワーク後、講師から面接場面と、より効果的なコミュニケーションについて講義をうけた

③ 活動の効果

- WEB開催で遠方の会員の参加もあった
- 6～7人でのグループワークは、それぞれのグループ活発に意見交換できた

④ その他

次回1月22日の研修会で実践報告の公募をする。要項は後日連絡する

活動名称：東海北陸ブロック会研修会 (WEB 開催)

実施日時： 2022年1月22日(土) 13時30分～16時30分

開催方法： Zoom (オンライン型)

講師： (内部講師) 新美由美氏・星野智穂弥氏・高須賀香奈美氏
石原英子氏・東川亜依子氏

参加人数：計47人 (石川県1人・岐阜県9人・三重県5人・静岡県5人・福井県1人
愛知県26人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 日本訪問看護認定看護師協議会の活動内容を知る
- 2) 他者の実践報告を聞き、今後の活動に活かす
- 3) グループワークを通しネットワークを作る

② 具体的な内容

1) 協議会の活動内容

今年度は、全国のブロックで看取りのできる看護師の育成『看取りプロジェクト』を展開した。東海北陸でも多数の参加者があった

2) 実践報告

- 新美由美子氏 「コロナ禍だからこそ訪問看護を広げよう～その運営戦略を考える～」
- 星野智穂弥氏 「自ステーションのBCP」
- 高須賀香奈美氏 「在宅支援体制の構築に向けた地域の活動
～在宅介護サービスの限界値を高めるための取り組み～」
- 石原英子氏 「最期まで家で過ごしたいをささえるために・・・」
- 東川亜依子氏 「5年目の認定更新をおえて」

3) グループワーク

8グループ(5～6人)にわかれ約30分、自己紹介と実践報告を聞き、日頃活動で悩むことなど意見交換や情報共有した

③ 活動の効果

グループワークを行うことで、新型コロナウイルス感染症における近隣訪問看護ステーションとの連携や、災害時のBCP作成など様々な情報交換と共有が図れた。



Supported by 日本 THE NIPPON FOUNDATION

2021年12月吉日

訪問看護認定看護師の皆さま

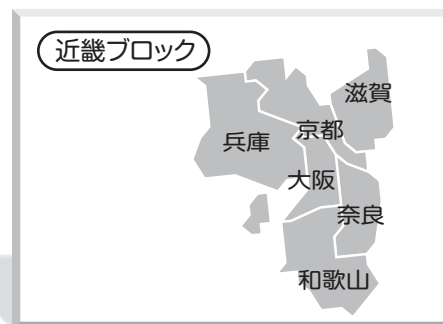
第17回 日本訪問看護認定看護師協議会東海北陸ブロック会

師走の候、皆さまにおかれましては益々ご活躍のことと存じます。
日頃は本会活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。実践報告会を計画しましたので、ご参加くださいますようお願いいたします。

記

1. 日程 2022年1月22日(土) 13:30～16:30
2. 場所 オンライン (Zoom) 開催
事務局: 名古屋市熱田区サテライト訪問看護ステーション
住所: 名古屋市熱田区神宮3丁目1-15 熱田区役所複合ビル6階
3. 内容 実践報告(内容は裏面の当日のスケジュールを参照して下さい)
4. 参加費 無料
5. 連絡先 (一財)名古屋市療養サービス専業団
近藤佳子(携帯)090-2573-2713
6. その他
※出席について、裏面にご記入いただき、2021年12月31日(金)までに、各地区役員まで、メールにて返信をお願いします。
※参加申し込みされた会員様には2022年1月17日以降、メールに当日の資料を添付しZoomへの招待のミーティングID・パスコードをお送りいたします。
※オンライン研修になります。オンラインの環境(インターネットの安定性、ZoomをインストールしたPC、PCのカメラ、マイク)が整っていることをご確認下さい。
※今回の案内は2021年11月時点で日本訪問看護認定看護師協議会に会員登録されている方へ通知させていただいております。ブロック会に参加希望の方は速やかに会員登録をお願いします。

(7) 近畿ブロック (ブロック長：團野一美氏)
正会員数 85名



活動名称： ブロック会議 1

実施日時： 2021年7月8日(木) 18時00分～19時00分

開催方法： Zoom(オンライン型)

参加人数： 計 10人 (大阪府4人・滋賀県2人・兵庫県2人・和歌山県1人・京都府1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 1) 今年度各県代表者の確認
- 2) 「看取り研修事業」代表者の選出
- 3) 今年度の年間計画

② 具体的な内容

- 今年度の活動に向けて、各県の代表者を確認した。
- 兵庫県の代表者に変更あり、連絡ツールに参加してもらう。
- 「看取り研修事業」は滋賀県の雨森氏が担当してくださる。
- 「看取り研修」に関する意見を出し合った。
- 今年度の研修計画を立て、1月に「人権」に関する研修を実施予定。
- 講師は、和歌山県の岩崎順子講師を予定しています。
- 2022年1月15日の日時決定をした。
- 9月のブロック会議で研修の進捗状況を報告する。

③ 活動の効果

今年度の活動の見通しが立った。

活動名称： ブロック研修会 2

実施日時： 2022年9月9日(木) 18時00分～18時30分

開催方法： Zoom(オンライン型)

参加人数： 計 10人 (大阪府4人・兵庫県3人・滋賀県1人・和歌山県1人・京都府1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 看取り研修への参加について
- 新型コロナウイルス感染者への訪問について

② 具体的な内容

- 看取り研修の進捗状況について各都道府県から報告
- 新型コロナウイルス患者への訪問の実際を報告
 - クループラインの紹介、訪問時の工夫について、訪問時の問題や課題、スタッフの感染時の対処
 - コロナ関連の最新情報の共有（国、各自治体）、各府県の研修状況（集合？オンライン？）
- 財団から寄付の感染防護具について情報提供

③ 活動の効果

看取り研修参加者を効果的に募集でき、役割分担ができた。
新型コロナウイルス感染症への訪問看護の各府県の実状がわかり、今後の活動に活かせる。

活動名称： ブロック会議3

実施日時： 2021年12月13日(月) 18時00分～18時30分

開催方法： Zoom（オンライン型）

参加人数： 計10人（大阪府3人・兵庫県3人・滋賀県1人・和歌山県1人・奈良県1人
京都府1人）

活動内容の報告：

① 活動の目的

1月15日近畿ブロック研修の詳細を検討する

② 具体的な内容

- 1) 研修のテーマについて岩崎氏に確認し、田端氏がポスターを作製する
- 2) 研修はzoomで行う（ホスト：大橋、田端、團野）
- 3) 司会者：木田、アンケート作成と集計：木田
- 4) 参加者募集は近畿ブロック会員で定員100名とする

③ 活動の効果

1月15日近畿ブロック研修の具体的な内容や役割分担ができた

④ 活動の効果

大橋代表より訪問看護の困難ケース事例をまとめた本の企画があることを情報提供
訪問看護財団に認定看護師としての事例提供していく

活動名称： 近畿ブロック研修会

実施日時： 2022年1月15日(土) 13時00分～15時00分

開催方法： Zoom（オンライン型）

参加人数： 計55人（都道府県データなし）

活動内容の報告：

① 活動の目的

人権について研修し、日々の訪問看護に活かすことができる

② 具体的な内容

テーマ：患者や家族が求める安心と信頼感

～人権はどこか遠くにあるのではなくあなたの心の中に～

③ 活動の効果

講演後のアンケート（回答 48 名）では講演について 32 名が関心を持ってたと回答してくださり、その理由として「内容が、人権につながっていて、私たちの心に、人権があるのだと考えるきっかけになりました」「訪問看護に活かせる内容であり、ひととひとの繋がりや声かけ、寄り添う大切さを改めて感じたからです」「実際の体験であるため、具体的にわかりやすかった」等であった。

今後の認定看護師としての活動については、32 名が「大変役に立つ・役に立つ」と答えてくださった。

その理由として「自分の中での人と関わる上での価値観のひとつとなりました」「ご家族様の視点からの具体的なお話だったので、興味深かったし、今後も私たちの知らないところでの苦労もあると思うので、そこにも目を向けていかなければとおもった」「事業所の研修内容に活かせると思いました」等であった。

④ その他

研修参加者が少なかったため、講師の先生がご自身の FB でも案内して下さったので、会員でない認定看護師や認定看護師でない方の参加もあった。

**「患者や家族が求める
安心と信頼感」**
～人権はどこか遠くにあるのではなくあなたの心の中に～

2022.1.15 (SAT) 13時～15時
ZOOM入室12時45分～

- 主催者：日本訪問看護認定看護師協議会 近畿ブロック
- 定員：100名（先着順）
- 参加費：無料
- 対象：訪問看護師（他職種も可）
- 開催方法：オンライン研修（Zoomミーティングを使用）

<講師> 岩崎順子さん
幼い子ども連3人が他界した父親の身体の上に寄り
添った体験を綴った『ガンが病気じゃなくなったとき』
（青海社）著者。
『いのち・人権・子ども・親子・高齢者・生と死・
グリーフケア・心の病気・震災・戦争』など色々な
テーマで、全国で1100回以上講演。

オンラインZoomにて開催 締め切り：1月10日（月）まで
ご参加には、パソコンやタブレット、スマートフォン端末、
インターネットの使える環境が必要です。
お申込み：下記URL又はQRコードよりお申込み下さい。
【URL】<https://us02web.zoom.us/join/register?zuid=QurgT0tGtMalgtBJ9CK2fXtQKcjj-ss>
参加URLの送信：参加申込時のメールへ送信致します。
※メールアドレスの間違いにご注意ください※
お問い合わせ先：訪問看護ステーションひなた 075-203-7302 岡野



活動名称： ブロック会議4

実施日時： 2022年1月15日(土) 15時10分～16時00分

開催方法： Zoom (オンライン型)

参加人数： 計9人 (大阪府4人・兵庫県2人・滋賀県1人・和歌山県1人・京都府1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- | |
|--|
| 1) 1月15日の研修を振り返り、今後の課題を検討
2) 来年度のブロック活動について |
|--|

② 具体的な内容

- | |
|---|
| 1) 研修の企画が遅かったために、協議会の zoom が使えなかった。来年度は日程だけでも早く決めておく。
ホストを3人で行う予定であったがうまく設定できず1人で行ったが、参加者を待たせることなく入出してもらうことが出来た。
広報が遅かったために参加者が少なかったのでHPなどで参加募集をした結果、協議会以外の方の参加が多かった。会費の徴収を行う必要があったができていない。協議会への入会はアピールした。早い段階で企画を行い、募集をかけるようにする。
アンケートの URL や QR コードが上手く読み込めなかった。(後日アンケートを再送付したが、55名の参加者のうち32名にしか回答が得られなかった。アンケートの配布方法を検討していく。) |
| 2) 来年度のブロック長は京都の團野が継続する。
次年度活動計画書を確認し、今後も会議を適宜行って、情報交換会と研修会の内容を決めていく。
研修会は和歌山のメンバー2名が主で行う。
今回のブロック会議は次年度の総会後に開催する。(それまでに各県の代表を決定しておく) |

③ 活動の効果

- | |
|--|
| 次年度の協議会活動の見通しが立った。
ブロック内での役割分担することができ効果的に運営できる。 |
|--|

(8) 中四国ブロック (ブロック長：尾崎美智氏)
正会員数 23名



活動名称： 2021年度第1回中四国ブロック会議、交流会

実施日時： 2021年7月18日(日) 13時00分～15時00分

開催方法： Zoom(オンライン型)

講師： (内部講師) 久田玲子氏

参加人数： 計14人 (広島県4人・岡山県3人・鳥取県1人・島根県1人・愛媛県1人
徳島県2人・香川県2人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

- 会員からの実践報告を受け、自身の活動に役立てる
- 2021年度訪問看護認定協議会活動の概要を理解し、ブロック活動の方向性について意見交換を行う
- 中四国ブロックの仲間を増やすために、在宅ケア認定教育課程について理解する

② 具体的な内容

- 交流会では参加者全員が自己紹介を行い、現在の活動状況について報告を行った
- ブロック活動について：担当理事から今年度の協議会活動について説明があり、「地域向け研修」と「コンサルテーション事業」について取り組めることがないか検討した
- 看取り研修について：担当者田村さんから概要の説明があり、メンバーの選出(手上げがない場合)と、大まかな方向性について検討した
- 中四国ブロックの仲間を増やす活動：在宅ケア認定看護師教育課程(徳島大学)の実際について教員久田さんから説明を受けた

③ 活動の効果

- 参加者は14名だったが、Zoomでの意見交換で全員の意見を聞くことは難しく時間が足りなかったが、活発な意見交換が実施できた。オンラインでも顔が見える交流ができたので、その後のSNSでのやり取りがしやすくなった。
- 在宅ケア認定看護師教育課程が徳島県で実施されている間に中四国ブロックの仲間を増やしたいが、今回は時間が足りず、実際の様子を聞くだけで終わってしまった。今後方策について話し合っていきたい。

※地域向け研修会は、4地域向け研修会にて報告。

(9) 九州ブロック (ブロック長：安部美保氏)
正会員数 29名



活動名称： ブロック研修会

実施日時： 2022年2月5日(土) 14時00分～15時50分

開催方法： Zoom(オンライン型)

講師： (外部講師) 古川誠二氏 与論病院非常勤医・松原徳洲会病院 訪問診療医
(内部講師) 野崎加世子氏

参加人数： 計18人 (大分県7人・福岡県1人・鹿児島県1人・高知県1人・広島県6人
群馬県1人・京都府1人)

活動内容の報告：

① 活動の目的

認定看護師としてその人らしく生ききるサポートができる

② 具体的な内容

プログラム参照

③ 活動の効果

在宅医療・看護に熱意をもって携われている先生方の熱意のある講義を聞くことができた。聴講者にとっては、今後仕事をしていく上で、モチベーションのアップとなり、私たち訪問看護師の進む道を示していただけた研修であった。

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

2021年度九州ブロック活動
【主催】一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

自分らしく最後まで
安心して暮らせるように
～治し、支える医療・ケアのこれから～

2022年 2月5日(土) 14:00～16:00
参加費：会員無料

プログラム

14:00～14:05 開会の挨拶

14:05～14:45 講演①「いのちに寄り添い看取るということ
—与論島の体験から—」
(与論病院 非常勤医 松原徳洲会病院 訪問診療医 古川 誠二氏)

14:45～15:30 講演②「障がい児から高齢者の暮らしを
最後まで支えるケアの創設」
(公益社団法人日本訪問看護財団理事 一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会監事 岐阜県看護協会立訪問看護ステーション管理者 野崎加世子氏)

15:30～15:45 質疑応答・意見交換

15:45～15:50 閉会の挨拶

裏面のお申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込み下さい。
申込〆切： 1月 21日 (土)

地元事務局 鹿児島県南さつま市金峰町中津野1207-1
さつま訪問看護ステーション
(お問合せ先) TEL：0993-77-2110 FAX：0993-77-2120

令和3年度 日本訪問看護認定看護師協議会九州ブロック研修会

障がい児から高齢者の暮らしを最期まで支えるケアの創設

～コロナ渦の中での在宅療養支援の現状～

日本訪問看護財団 理事
岐阜県訪問看護立訪問看護ステーション高山
管理者 野崎 加世子
(訪問看護認定看護師)

学研メディアカルサポート 052-79

研修終了後アンケートまとめ

問1 古川先生の講義はいかがでしたか。

ア 大変よい 6人 イ よい 2人 ウ まあまあ エ 不十分

理由

- 私は看護師ではなくケアマネですが、同じ命に寄り添う仕事だと思っています。最後までその人らしく生きることを支えることを、再確認させていただき、利用者さんから学び続けようと思いました。
- 30年も島で診療を続けるなど、すごい先生だと思いました。また、バス事故をきっかけに何でも診療できる医師になろうと思われた向学心もすごいと思いました。
- 長い間、島の人々の最期を手をにぎって見送るスタイルは、だれにもマネできないことであると思います。どれほど島民が心強かったことでしょうか。そして、今でも絆を大切に月に7回程度診療に行かれていることは素晴らしいと感銘いたしました。
- 訪問診療時に病気のことを話すのではなく、何気ない日常の何気ない話を聞くことですと言われたことがとても印象深かった。
- 声が小さくて聞き取りにくかったのが残念でした。
- 離島での在宅医療の大変さを思いながら、尊い命に寄り添うことの大切さを改めて感じました。人はいつも誰かのケアをし、誰かにケアされているというお話が心に残りました。

問2 野崎先生の講義はいかがでしたか。

ア 大変よい 7人 イ よい 1人 ウ まあまあ エ 不十分

理由

- ご自身でナーシングディを開設され、卒にとらわれない(小児～高齢者)方々の人生に関わってこられた先生のお話は、とても前向きに慣れて、自分でできることからなんでも初めていこうと思いました。
- 野崎先生のお話は、力がこもっていてパワーがもらえるのでとても良かった。
- 地域に根差したサービスを小児から高齢者まで過疎地域ならではの活動に感銘を受けました。障害があっても尊厳をもって生きる権利がある・・・このことを一貫してやり通していることが感動いたしました。
- とても実行力のある仕事をされていて元気が出ました。利用者様のニーズに合ったサービスを自分で立ち上げてるなんて素敵です。
- 子供から大人まで、これから必要になっていく内容は、私たちの地域にも広げていく必要があると考えさせられました。また、コロナ禍の訪問看護の体制の直行直帰時の、情報共有方法や自宅での過ごし方や困難さなど聞きたかったです。
- 野崎先生のパワフルさに力をいただいた気がします。とても聞き取りやすい語り口で、様々な取り組みをされ、地域の人々とかわってこられた先生のご講義を、とても興味深く楽しく拝聴させていただきました。

問 3 本日の講演会で印象に残ったことをお書き下さい。

- 在宅看取りの現状（Aさんの事例）がわかりやすくまとめられて、見返しながら再確認できるので良かったと思います。
- コロナで島民とのセッションができなかったのは、残念でしたが、先輩たちの実践と経験は、とても参考になりましたので開催できて良かったです。
- お二人の先生方は「自分の役割」をしっかり持ち、そこに長い時間をかけて取り組んでこられています。私も微力ながらこの地域のためにできる事をこつこつと実践していくことが大切なことであると考えました。
- コロナ禍で何事も制約されている今日、私たちが必要とくださる利用者のために何ができるかを日々考えながら関わっていることがよくわかった。
- 発表を聞きながら、先生方が、楽しみながら日々の仕事をしているような印象がありました。
- ナーシングデイはとても興味深いお話しでした。当社は共生型デイサービスを併用しており、訪問看護の看護師が連携してサポートすることで、医療依存度の高い利用者の受け入れをさせていただいています。今後の参考にさせていただければと思います。

問 4 講演は何で知りましたか。（複数回答可）

- 同僚より 2人 • 上司より • チラシ 1人 • FAX 2人
- その他 3人（主催。ライン）

問 5 その他ご意見ご感想をご自由にご記入下さい。また、今後の研修テーマ希望をありましたらお書きください

- 埼玉の立てこもり医師の事件がありましたが、自分たちの身を守る方法や事例など。
- 診療報酬改定で医療的ケア時や在宅での意思決定支援に加算が付くようになってきているので、その点の話や、アフターコロナの話、BCPの作成の話我希望します。
- 看取りのできる訪問看護師第2弾
- 緩和ケアの実践
- 看護師ができるリラクゼーション
- 高知県は中山間が多くその環境のために自宅へ帰れないという事を聞きます。今回の研修で学んだことを活かして自宅で最期を迎える事ができる利用者が増えるよう携わっていきたいと思いました。
- 医療の目を見て、生活を見て行っている。まさしく私たちが日々行っていることであると、講演を聞きながら再確認できました。
- 野崎先生の資料にあった、“学校への訪問”のお話もお聞きしたかったと思いました。

2. 研究活動支援

テーマ：W 改定に向けて、訪問看護認定看護師が所属する事業所への加算を要望するための調査・研究

訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ 大橋奈美

徳島大学大学院医歯薬学研究部 久田玲子

大阪市立大学大学院看護学研究科 岡本双美子

I. 目的

訪問看護認定看護師が所属する事業所における看護実践を明らかにし、2024年に行われる、診療報酬・介護報酬の同時改定に向けて2023年度に協議会からの要望書を提出するための基礎資料とすること。

II. 研究方法

対象は、日本訪問看護認定看護師協議会に登録している全国の訪問看護認定看護師、約370名とした。

III. 結果

1. 対象者と所属先の特徴

年齢（表1）は20歳代2名、30歳代24名、40歳代71名、50歳代8名、性別は男性1名、女性104名、合計105名（回収率33.9%）であった。管理者または所長は76名、主任16名、スタッフ13名であった。平均看護師経験は29.3±5.9年（15～51）、訪問看護師経験は16.2±5.9年（4～33）、CNは6.9±4.2年（1～21）であった。

所属先が訪問看護ステーション85名、病院6名、在宅関連施設4名、その他（教育機関や訪問看護ステーション協会など）2名であった。

所属する訪問看護ステーションが機能強化Ⅰ型22名（21.0%）、Ⅱ型12名（11.4%）、Ⅲ型3名（2.9%）であり、24時間対応体制は9割強の訪問看護ステーションが実施していた。常勤換算人数は8.2±7.3人（2.5～63）であった。衛生材料を常備している施設は71施設、していない施設は18施設であった。

併設施設（複数回答）は居宅介護支援事業所67名、病院・診療所、医師会は37名、訪問介護事業所19名、通所介護施設16名、児童発達支援・放課後等デイサービス5名、小規模多機能型居宅介護5名、その他18名（老人保健施設や療養通所介護、通所リハビリテーション、看護小規模型居宅介護、ホームホスピス、包括支援センター、ショートステイなど）であった。

併設施設が療養通所介護の施設のうち通所介護の開始を月初めに限定している施設は3施設のみであり、残りの10施設は限定していなかった。

特定行為研修修了者は、1名いる施設は3か所、2名が2か所、9名が12か所であった。実施内容（表2）としては、最も多かったのは膀胱ろうカテーテルの交換12名、次いで脱水症状に対する輸液による補正が9名、褥瘡等の壊死組織の除去が8名、薬剤の投与8名、持続点滴の投与量調整6名、気管カニューレの交換5名、胃ろうの交換4名、気管チューブの位置の調整3名であった。

2. 訪問看護師の看護実践

訪問看護師の看護実践（表3）では、介護保険利用者の「退院時共同指導加算」を2021年8～10月の3か月間で1～3人に実施していた施設は35か所、最大15人に実施していた。医療保険利用者では、3か月間で1～3人に実施していた施設は30か所、最大19人に実施し、その際に関わる施設数は1～3施設が54か所、4～6施設は18か所、最大10施設との回答もあり、多数の施設と共同していることがわかった。

褥瘡による特別訪問看護指示書は、3か月間で1～3回受けていたのが34か所、最大6回であり、熱傷や蜂窩織炎、難治性潰瘍による訪問は、3か月間で1～3回実施していた施設は30か所、最大8回実施しており、2週間で完治したと回答した施設はわずか2か所であった。

要支援1・2の利用者でリハビリテーション開始から12か月以上経過後にリハビリテーションを実施している利用者は、3か月間で1～3人であった施設は11か所、最大14人に実施していた。

表1 対象者の個人特性

		合計	%
年齢	20歳代	2	1.9
	30歳代	24	22.9
	40歳代	71	67.6
	50歳代	8	7.6
合計		105	100.0

表2 特定医行為の実績

特定医行為	人数
気管チューブの位置の調整	3
侵襲的陽圧換気の設定の変更	0
非侵襲的陽圧換気設定変更	0
人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮痛薬の投与量の調節	0
気管カニューレの交換	5
胃ろうの交換	4
膀胱ろうカテーテルの交換	12
褥瘡等の壊死組織の除去	8
創部レーンの抜去	0
硬膜外カテーテルによる投与及び量の調整	0
持続点滴の投与量調整	6
脱水症状に対する輸液による補正	9
インスリン投与量の調整	0
薬剤の投与	8

表3 看護実践

看護実践	なし	1~3	4~6	7~9	10以上	最大
介護保険：退院時共同指導加算	32	35	8	1	3	15
医療保険：退院時共同指導加算	21	30	11	6	4	19
上記で関わる施設数	1	54	18	1	1	10
上記で1者以下が病院に赴き、 それ以外はビデオ通話	46	19	0	0	0	3
褥瘡による特別訪問看護指示書	38	34	4	0	0	6
熱傷や蜂窩織炎、難治性潰瘍による訪問	49	30	1	1	0	8
上記で特別訪問看護指示書の 2週間で完治した利用者	46	2	0	0	0	2
要支援1・2でリハビリテーション開始から 12か月以上経過している利用者	64	11	5	2	4	14
医療保険：退院当日の2回訪問	71	18	0	1	0	7
医療保険：退院当日に訪問し 翌日に亡くなられた方	76	14	0	0	0	3
夜間緊急訪問が2回以上の利用者	57	21	1	0	1	10
医療保険：複数名訪問実施	32	31	4	2	2	21
上記で週2回以上訪問	15	28	5	1	2	18
医療保険：長時間の算定	33	28	6	2	4	28
上記で週2回以上訪問	8	27	7	0	3	19
がんターミナルケアの実施	4	29	22	6	8	20
非がんターミナルケアの実施	22	43	7	0	0	6
上記で介護保険の限度額の超過	61	10	0	0	0	3
呼吸停止後の訪問	18	42	9	2	2	11
死亡後のグリーフケア訪問	15	33	13	3	6	30

* 3か月の人数は2021年8月~10月の期間の人数を示している

表4 要支援1・2利用者でリハビリテーション開始から12か月以上経過後のリハビリテーションの必要性

カテゴリ	コード
ADLの維持・向上	ADLは維持できている
	悪化予防(維持を目的とする)の効果あり
	機能維持、廃用予防
	筋力維持には効果を出せています。
	在宅酸素療法中において、ADLの維持、フレイル予防
	進行する病態に合わせて転倒予防や筋力維持などリハビリを行うことでADLの維持が行えている
	歩行時のバランス転倒予防
	効果はあるが、目標に達していないため
在宅療養の継続・生活動作の範囲の広がり	基本的な動作機能や生活機能の維持改善だけでなくその人の能力を生かした生活スタイルを提案し、日常生活での活動量の確保に繋がる
	肺リハを行い急性憎悪はなく在宅で経過している
	外出できるようになってきた
	継続により筋力がつき、生活動作の範囲が広がった
	継続しているから悪化せず在宅療養を継続できている
	特に退院後や慢性疾患、精神疾患の方の自立して生活を維持、或いは再獲得するために必要
意欲向上・閉じこもり予防	意欲向上、社会活動やコミュニケーションの機会、精神活動
	本人の意欲の維持に大きく影響を与えている
	室内に閉じこもり傾向なので、歩行訓練を外で実施
本人家族の希望	本人、家族の希望が強い
	何とか自力で動いてぎりぎりの生活を送っている方のリハビリ継続はQOL維持に必要
	家族が希望しているため行っている
	家族の介護負担軽減、本人の不安の軽減
	身のまわりのことを出来ることを維持したいという希望、実状があった
通所系リハビリテーションの代替	リウマチで継続して必要、通所リハビリを利用したくないため専門的なリハビリが受けられない、リハビリを継続しないと後退するが他に受けられるサービスがない
	通所系のサービスの利用拒否の方には活動量低下に伴う身体機能低下の予防が図れる
	通所系のリハビリに拒否があるが、そのままにしてしまうとフレイルが進行し、介護度が上がってしまう可能性がある
	腹部大動脈瘤術後で、通所施設に行く不安、リスクがある
他のサービスへ繋ぐ	他のサービスに繋げるため
	歩容維持、デイサービスへ繋いだ

医療保険における退院当日の2回訪問を3か月間で1～3人に実施していた施設は18か所、最大7人であった。退院当日に訪問し翌日に亡くなった利用者が、3か月間で1～3人の施設が14か所、最大3人が亡くなっていた。また、夜間緊急訪問が2回以上の利用者が、3か月間で1～3人の施設は21か所、最大10人であった。

複数名訪問を実施している利用者が、3か月間で1～3人の施設は31か所、最大21人であった。そのうち、複数名訪問を週2回以上の利用者が、3か月間で1～3人の施設は28か所、18人であった。また、長時間訪問では、3か月間で1～3人の施設は28か所、最大28人であった。そのうち、長時間を週2回以上の利用者が、3か月間で1～3人の施設は27か所、最大19人であった。複数名訪問や長時間訪問の場合は、ほぼ週2回以上実施していることがわかった。

がんターミナルケアの実施は、3か月間で1～3人の施設は29か所、4～6人の施設が22か所で、最大20人に実施していた。非がんターミナルケアの実施は、3か月間で1～3人の施設は43か所、最大6人に実施していた。非がんターミナルケア実施のうち、介護保険の限度額を超過している利用者は、1～3人の施設は10か所、最大3人であった。非がんターミナルケアでは、介護保険の限度額内でサービスが収まっていることがわかった。

呼吸停止後の訪問が、3か月間で1～3人の施設は42か所、最大11人実施していたことがわかった。また、死亡後のグリーンケア訪問が、3か月間で1～3人の施設は33か所、4～6人の施設は13か所、最大30人に実施していた。

要支援1・2の利用者リハビリテーション開始から12か月以上経過後のリハビリテーションの効果と必要性（表4）については、多くがADLの維持・向上のために必要と答え、目標にまだ達していないとの回答も僅かながらあった。その他、意欲向上や閉じこもり予防のために必要であるや、本人・家族の希望が強いとの回答もあり、在宅療養の継続・生活動作の範囲の広がり通所系リハビリテーションの代替との回答もあった。また、他のサービスへ繋いだとの回答も見られた。

3. 診療報酬・介護報酬についての要望

診療報酬・介護報酬についての要望（表5）は、在宅療養を推進するための連携についてと中重度の療養者の訪問看護の充実に関する内容であった。

具体的には、退院時の病棟看護師からの看護要約（サマリー）や退院後の外来看護師や多職種との連携に関する書類や会議に対する加算の要望があった。また、退院にあたり共同指導加算や退院支援加算、退院日の複数回訪問加算や退院日からの基本療養費算定、退院日当日の死亡や当日・翌日の再入院時の算定、月1回目からの夜間訪問加算も挙げられていた。

さらには、長時間訪問や複数名訪問、複数回訪問の回数、または緊急訪問、乳がんや難治性潰瘍、熱傷、蜂窩織炎に対する特別指示書や特別管理加算についての要望もあった。加えて、非がん疾患療養者への特別指示書の回数やターミナルケア加算、グリーフケア加算、専門看護師（CNS）・認定看護師（CN）のいる事業所への加算、特別な関係になる機関による制限などがあった。

表5 診療報酬・介護報酬についての要望

カテゴリ	コード
看護要約	サマリーについての加算を希望。
	看護要約への加算
連携会議・書類	担当者会議にも加算など欲しい
	地域ケア会議への参加加算 地域包括ケアシステムに関する市町村の会議への参加
	連携に関する書類の加算 地域活動の加算
	ターミナル利用者の連携加算評価
	外来通院中の利用者へのカンファレンスについて報酬をつけて欲しい
	外来看護師と訪問看護師が連携した場合の加算創設も検討課題とお願いしたい
退院支援	介護保険の退院時共同指導加算同日に2箇所算定可能にしてほしい
	退院日の退院支援加算は複数回にして欲しい
退院日複数回訪問	退院時の複数回訪問看護 緊急時の加算を認めてほしい
	退院日に複数回訪問看護が出来ることを望む。退院日から翌日までをしっかりと支えることが、在宅生活定着の第一歩。最期は自宅だと希望し、本当に最期の時に在宅サービスを利用する方も多い
退院日基本療養費算定	退院日から点滴や医療的なケアを必要とする利用者が増えている。退院日から療養費算定ができればと思う
	退院日の基本療養費の算定、同日2カ所目のステーションの基本療養費の算定、複数名・複数回の算定回数の緩和
退院日当日死亡	退院日当日に死亡した場合、大半が緊急対応となり、サービス内容が充実しているため基本療養費が暫定できるようになってほしい。現行は、各種指導料、加算も算定できない
	退院前カンファレンスもして退院当日に訪問したが、次回訪問までに当日や翌日に再入院してしまったり、亡くなったり、入所したりしても、何か算定出来るようにしてほしい
月1回目夜間加算	介護保険、緊急訪問時、夜間手当がつけられるのは、その月緊急訪問2回目からと伺ってます。月、1回目からの緊急訪問から夜間の場合、夜間手当をつけるようにしてほしい
	緊急訪問の夜間加算は1回目からとれるようにしてほしい
	夜間帯の緊急訪問が、月内の1回目から夜間加算、深夜早朝加算が算定できるようにしてほしい
長時間・週4回以上訪問	長時間回数の（1回/W）緩和
	診療報酬の一回あたりの訪問時間によって金額を設けていただきたい
	訪問看護の4回目訪問診療報酬加算の評価
複数名訪問	重度の方が増えて看護師の身体的、精神的負担軽減のため（環境面も）、2名訪問しているケースが増えている。経済的に厳しい家の方に複数名加算は取れないので、事業所負担としている
	複数名訪問と長時間訪問の回数制限をもう少し増やして欲しい
	医療保険の複数対応を週一回より多く算定できると助かります

表5 診療報酬・介護報酬についての要望（つづき）

カテゴリ	コード
複数回訪問	神経難病の方の複数回訪問単価を上げて欲しい。看護師の訪問もセラピストの訪問も必要である。複数回での訪問は時間が短く十分なケアが実施できない。看護とセラピストの訪問を分けて請求できるようにしてほしい。特別管理加算を複数抱えている方には、さらなる加算を設けて欲しい
緊急訪問	ターミナルが多くなり医療保険で退院日に1回以上の訪問や緊急訪問があるなどの場合があり算定できずにかきようにしてほしい。訪問後状態変化や急変した場合2時間開かない場合もあり、合算しても2時間超えての訪問時間がある。必要な提供には評価して欲しい 介護保険の場合、加算などで限度額がオーバーになってしまうことがある。限度額外にしてほしい
特別指示書・特別管理加算	乳癌の自壊創の処置に対応困難でかなりの時間を要する為、特別管理加算に加えて欲しい 難治性潰瘍の特別指示連続可能や特別管理加算の算定、 難治性潰瘍の処置も特別指示を2回交付可能にして欲しい 難治性潰瘍、熱傷、蜂窩織炎には特別管理加算の算定と特別訪問看護指示書の2回/月交付を認めて欲しい
非がん疾患	介護保険でも非癌の看取り期にある方は医療保険が優先となるようにしてほしい。もしくは特別訪問看護指示書の発行を月2回できるように緩和してほしい 非がん疾患の方のターミナル期における特別指示書が月1回なのが困る
ターミナルケア	ターミナルケア加算/療養費を増額して下さい 退院日ではないが主治医から依頼があつてその日に訪問したが当日亡くなられた。1日4回訪問してエンゼルケアも行ったが、ターミナルケアと4回目訪問はとれなかった。複数回訪問でも2回以上訪問していればターミナル加算をとれるようにお願いしたい
グリーンケア	エンゼルケアやグリーンケアの訪問、介護保険の訪問看護の点数を別枠にしてほしい ターミナル療養費やターミナル加算からのグリーンケアは算定出来るようにしてほしい。呼吸停止後、家族から呼ばれるが、実は算定出来ない事が多く、夜間など、コストにならない事がおかしい グリーンケアに加算をつける グリーンケアに点数をつけてもらいたい
CN・CNSのいる事業所	認定看護師や特定行為研修修了者の在籍する訪問看護ステーションに対する加算要望を強く希望 訪問看護認定看護師が所属するステーションに在宅における看取り件数や看護の質、また地域への関わり等を考慮し、加算を要望したい 病院ではCNやCNSを含むチームで加算算定できることがあるが、在宅領域でも質の高いケアを実施している事業所として訪問看護CNや在宅関係のCNSがいる場合に加算を取れるような仕組みが欲しい 他訪問看護を断ったケース（「処置の仕方が気に入らない」「若いスタッフなので嫌だ」）や、ケアマネジャーが看護が必要だと思うが「うまく説明ができない」「家族が細かくて（あるいは要望が高すぎて）大変だ」と感じるケースを受けることが多い。医師からも急な（土日を含めた）末期のケースへの対応を依頼される。訪問看護認定看護師としての知識と経験が、直に提供する看護の実践と他スタッフへの教育に大きく影響している 訪問看護認定看護師が退院調整した場合の加算も要望したい（まだMSWに委ねている施設もある）
特別な関係	同一法人に機能強化型在宅支援診療所があり『特別な関係』に該当すると、がん末期の場合、頻回な訪問が必要となるが、在宅医の訪問診療と訪問看護が同日に訪問した場合、片方しか算定ができず、訪問診療と訪問看護では援助の内容が大きく異なるため、どちらも算定できるようにしてほしい 特別な関係にある医療機関の訪問診療を算定した日に訪問看護療養費が算定できないのは困る。毎日処置が必要な方がいる 診療報酬で特別な関係にある診療所との同日の訪問の算定ができるようにしてほしい。初回又は退院日に限るなどの制限付きでもよいので 特別な関係にある病院から訪問診療がなされた場合、定期訪問を実施しても算定されない。当地域では僻地であり、代行出来る介護サービスも少なく療養生活に影響する。減算でもよいので算定できる要件緩和をお願いしたい 特別な関係の法人と、同日請求を要望する。医師が、オムツを変えたり口腔ケアを行うことは出来ない。今は完全ボランティアです 入院時情報提供書について、入院先が特別な関係でも算定可能にしてもらいたい
訪問看護指示書	指示書返信封筒に対する病院側のペナルティをつけて欲しい 訪問看護指示書に関して、入手するまで時間と手間を要するので、発行する側の指示書が何のためにあるのかを認識出来る要件を加えて欲しい
COVID-19退院後	コロナ退院後の訪問看護を公費にしてほしい
その他	地方は看護師不足なのに小規模ステーションばかりが乱立している。大規模にしたくても人がいなくてできない。基準の2.5人を上げるしかないのではないかと 報酬金額を上げて欲しい。頑張っている人が報われる内容であって欲しい それぞれの制度で違うことがあるが整理してほしい 広域で移動に時間がかかる際の加算。利用者負担を増やさずに訪問看護費を上げてほしい 有料老人ホームが増えてきており、一軒一軒、在宅へ赴く訪問看護との違いを明確にしないと、地域に根を張る訪問看護師は増えていかない。報酬のバランスが悪く人材確保、育成は厳しい

IV. 考察

訪問看護認定看護師の看護実践では、退院に向けて最大で10施設と連携を図るなど、在宅療養移行において多数の施設と共同していることがわかった。

褥瘡による特別訪問看護指示書を3か月間で受けたことがあると回答した訪問看護認定看護師は38名に対し、熱傷や蜂窩織炎、難治性潰瘍による訪問は、32名とあまり変わらないことがわかった。また、熱傷や蜂窩織炎、難治性潰瘍が2週間で完治したと回答した施設はわずか2か所であったことから、褥瘡だけでなく、熱傷や蜂窩織炎、難治性潰瘍による特別訪問看護指示書の回数改善を要望したい。

また、複数名訪問や長時間訪問の場合は、ほぼ週2回以上実施していることがわかった。

がんターミナルケアの実施は、3か月間で1～3人の施設は29か所、4～6人の施設が22か所で、最大20人に実施していた。一方、非がんターミナルケアの実施は、3か月間で1～3人の施設は43か所と対象者は少ない現状があるが、ケアを実施している施設はがんとあまり大差がないことがわかった。さらに、非がんターミナルケアでは、介護保険の限度額内でサービスが収まっていることがわかった。今回の調査では、非がんターミナルケアにおいて、介護保険内の限度額内でサービスが収まっている理由はわからないが、今後は、慢性心不全のように非がん疾患が緩和ケアの対象に追加されることが予測され、在宅看護においても重要となることが予測される。非がんはがんに比べて身体機能が低下した状態で終末期を迎えることが明らかになっていることから、がん同様に訪問看護が医療保険で実施されることにより、他のサービスが介護保険内で実施され、充実されることが望まれる。

呼吸停止後の訪問が、3か月間で55か所が実施しており、半数を超えている。同様に、死亡後のグリーフケア訪問も同数実施していたことから、ターミナルケア加算の要件やグリーフケアに関する加算を要望したい。

訪問看護認定看護師のうち、特定行為研修修了者の実施内容は、膀胱ろうカテーテルの交換や脱水症状に対する輸液による補正、褥瘡等の壊死組織の除去、薬剤の投与、持続点滴の投与量調整、気管カニューレの交換、胃ろうの交換、気管チューブの位置の調整などであった。これらを訪問にて看護師（特定行為研修修了者）が実施することで、通院や数少ない往診を待たなくてよい利点がある。特に通院となると、病院までの移動や診察までの待ち時間、体調不良時の再度の通院日・付き添いの調整などが不要となり、在宅療養者本人だけでなく、家族の負担軽減につながり、諸経費の軽減にもつながる。

以上のことから、地域包括ケアシステム構築に欠かせない訪問看護認定看護師の実践内容は、在宅療養を推進するための連携と中重度の療養者の訪問看護の充実に関する内容が多いことがわかった。今後も、さらなる充実が図られることが望まれる。

3. コンサルテーション活動

(1) 実施報告書

2021 コンサルテーション事業（北関東ブロック） 計画・実施報告書				
1：事業概要	1) 目的 訪問看護認定看護師の周知			
1) 目的	2) 活動内容			
2) 活動内容	①訪問看護相談カフェ（訪問看護従事者が悩みを語り合い、解決の糸口を探すための支援を行う）			
3) 対象地域	②個別 Web 相談（カフェ参加者から具体的な悩み相談を個別に受ける）			
	3) 対象地域 千葉県及び近隣県 （*千葉県：訪問看護ステーションの休止・廃止率が高いことによる）			
2：活動 メンバー	担当理事	佐々木ゆかり	（全体調整、アンケートなど書類取りまとめ）	
	ブロック長	杉原幸子	（カフェ司会、チラシ原案など作成）	
	アドバイザー	佐藤富子	（情報提供）	
		松井美壽子	（座談会）	
3：活動 スケジュール	開催日	内容		参加者
	8/15	（役員会） ・メンバー選定方法、活動概要の共有 ・開催日程案（12月か1月の実施）		
	9/23 19:15 ～ 20:30	事業内容打合せ① ・前年度実施マニュアル・報告書など資料等の確認・共有 ・カフェなど開催に関する疑問点の共有 ・仮日程：1月15日、29日（12/10申し込み締切） ・役割分担：情報提供（佐藤）、座談会（松井）、司会（杉原）、全体調整（佐々木）		佐々木ゆかり 佐藤富子 松井美壽子 杉原幸子 LINE
	10/17 16:00 ～	カフェ 2021 事前ミーティング ・事業概要説明 ・前年度実施者からの助言：準備・実施状況、留意点など（参加者の発言を促す、助言に徹する。セミナーは参加者ニーズに沿う） ・今年度計画：日程案、準備工程の確認・共有 申込みフォーム・PR用ちらし・ヒアリングシート作成→申込み受け付け開始		杉本由紀子理事 田川章江理事 佐々木ゆかり 佐藤富子 松井美壽子 杉原幸子 事務局 Zoom
	11/21	事業内容打合せ②		佐々木ゆかり LINE

	19:30 ～ 20:45	・申し込み状況（1名）の共有、再周知徹底の確認：各会員が地域に配布 ・情報共有テーマ決定（ハラスメント関連） ・カフェ配布資料、配布方法の共有 ・事前・当日準備と役割分担の確認	佐藤富子 松井美壽子 杉原幸子	
		12/10：申込み締切り→12/21まで延長		
	12/11 20:00 ～	事業内容打合せ③ ・申し込み状況（6名）、参加理由などの共有 ・情報提供内容の修正 ・当日の流れと役割分担の確認：試行 ・アンケート・プログラムなど準備・提出書類の確認	佐々木ゆかり 佐藤富子 松井美壽子 杉原幸子	Zoom
	12/25 19:30 ～ 20:30	事業内容打合せ④ ・当日の流れと役割分担の確認 ・アンケート・プログラムなど準備・提出書類の確認 参加者決定（7名） →通知、資料など発送	佐々木ゆかり 佐藤富子 松井美壽子 杉原幸子	LINE
	1/15 12:00 14:00 15:30 16:00	当日 事業内容（直前）打合せ⑤ ・申し込み状況（7名）の共有 ・当日進行と役割分担の共有、修正点の確認 「訪問看護相談カフェ」開催 〃 〃 終了 事業内容（実施直後）振り返り⑥ ・カフェ運営の評価 ・事後の役割分担の確認	佐々木ゆかり 佐藤富子 松井美壽子 杉原幸子	LINE
	1/29	個別 Web 相談：申し込みなく中止		
	2/13	実施後評価	佐々木ゆかり 佐藤富子 松井美壽子 杉原幸子	書面 開催
	* 上記以外は随時 SNS などを利用、情報共有・意見交換などを実施した			
4：事業実施	①訪問看護相談カフェ 2021年1月15日（土）14：00～16：00 （13：30入室開始） ②個別 Web 相談 *申し込みなく中止			
5：実施内容	「訪問看護相談カフェ」 方法：Zoom を利用したオンライン開催			

	<p>配信会場（船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーとほか）</p> <p>プログラム</p> <p>13：30 Zoom 入室開始</p> <p>14：00～14：05 開始時オリエンテーション</p> <p>14：05～14：25 情報提供「訪問看護 St における暴力・ハラスメントの対応」</p> <p>14：25～15：25 座談会（自己紹介、フリートーク、まとめ）</p> <p>15：25～15：30 終了時オリエンテーション Zoom 退室</p> <p>対象者・周知</p> <p>前年度を参考に訪問看護カフェのチラシを作成し、千葉県看護協会、千葉県訪問看護ステーション協会に広報の協力を依頼、認定看護師協議会 HP 掲載のほか、北関東ブロック会員が個別に各地域の事業所に周知した。</p> <p>Web 個別相談のチラシを作成し、カフェ参加申し込み者に事前に周知した。</p>
6：結果	<p>【研修会参加者アンケート結果】</p> <p>*参加者 7 名、アンケート回収 6 名（回収率 85.7%）</p> <p>1) 参加者に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職種：看護師（全員） ・職位：事業所管理者（全員） ・訪問看護経験年数：3 年未満 1 名、～5 年未満 2 名、 ～10 年未満 1 名、10 年以上 2 名 ・応募理由：課題共有と解決策を探るため 管理者の役割やスタッフの育成方法など助言がほしい 上司からのすすめ、CN から誘われた 3 名 <p>2) カフェに関すること</p> <p>①情報提供のテーマ ：とてもよい 1、まあまあよい 4、どちらでもない 1</p> <p>②情報提供の内容 ：とてもよい 1、まあまあよい 5</p> <p>③情報提供の内容は役立つか ：まあまあ役立つ 5、どちらでもない 1</p> <p>④座談会は話しやすい雰囲気か ：まあまあ話しやすい 2、どちらでもない 4</p> <p>⑤課題は整理できたか ：まあまあできた 3、どちらでもない 3</p> <p>⑥課題解決の方向性は見えたか ：まあまあ見えた 2、どちらでもない 4</p> <p>⑦カフェ参加の感想 ：まあまあよい 4、どちらでもない 2</p> <p>⑧カフェの参加費 ：まあまあよい 5、どちらでもない 1</p>

⑨他者へのカフェ参加の勧め

: 勧めたい5、検討したい1

⑩Web 個別相談の申し込み予定

: 日程が合わない2、費用が高い1、予定はない2、
リモートに慣れない1

【実施主体（CN）意見】

① 全体

- ・今年度の活動予定が決まっていた状況下で、看取り研修が急ぎよ決定しそちらに人員を配置、残された会員内でカフェ運営メンバーを募り準備し活動した。メンバーそれぞれが主体的に動き、円滑に役割分担、お互いフォローし合いながら準備、運営ができた。限られた準備期間の中では頑張ったしやり切ったのではないか。
- ・情報提供はテーマ選定もよく、参加者は時々頷きながら熱心に話を聞き、メモをとっている様子があった。時期（社会情勢）的にも、参加者のニーズ的にもよかったと思う。途中で参加者が全員管理者だということになり、管理者の視点で何を考えどう行動（準備）するか視点での内容に修正し、参加者は自身の姿をイメージして考えやすかったのではないか。アンケート結果からもテーマや内容に関する評価は高く、今後役立つと考えている者が大半であった。
- ・情報提供者からのパワハラ事例の話にはとてもリアリティがあり説得力があった。参加者の心が揺さぶられその後の座談会での話に上手くつながっていた。また情報提供をきっちり時間内におさめたことで、座談会の時間も予定通りに確保できた。
- ・パワーポイント資料の文字ずれの原因は何か？
- ・座談会では、順番で自己紹介を行い参加者は安心できたのではないか。また司会者はとても柔らかい口調で話し、堅苦しさを取り除くように声掛けをしていたので、参加者の緊張が少し和らぎ終始和やかな様子で座談会をすすめることができていた。
- ・参加者が皆同じくらい話をしていて、少し話し足りないくらいのところでの終了だったので、初対面の人がいるなかでの座談会の時間としてはちょうどよかったのではないか。オンラインで意見を引き出す難しさがあり、開始後すぐに全員でミュートを外すことに気づき声掛けしてくれたことで、参加者の声（気配）が伝わりやすくなり、会の雰囲気がより参加者にとって身近なものとなった。
- ・オンライン開催の難しさがある中で、参加人数にも助けられ、同じような悩みや不安を持っていることや実施している工夫点など解決策を共有することができた。（多すぎず少なすぎずそれぞれの経験値が聞ける状況があった）またファシリテーター全員が参加者の声に耳を傾ける、意見を引き出すことを第一に対応していたのはよかった。一言発言したらその発言者が発言していない人に話を振る、なぜ困ったのか内容や理由について深く掘り下げ解決に向けるなど、より高

度なアプローチができるようになるとさらによいと考えた。

- ・参加者の背景や困りごとの詳細をすべて把握しての座談会ではなかったことや時間に限りがあったことから、当初の目的通り参加者の課題をおおまかに整理し解決の糸口を探ることはできたのではないか。参加者自身の課題整理や方向性を見出すことについてはできた者とどちらでもない者がほぼ半々となっていたが、カフェ参加自体はよかったと考え他者にもカフェ参加を勧めたいとの意見も多かったことから、カフェ開催の目的はおおよそ達成されたのではないかと考える。
- ・全体的なプログラムの内容や時間配分はちょうどよかった。また前年度実施者から事前に準備や運営に関することの詳細について助言をいただけたことで、実際にイメージしながら準備・運営することができた。申し込み手続きやアンケートなどオンラインを活用、大半の事務作業を事務局に支援いただけて非常に助かった。

②今回生じた課題と今後の解決策（案を含む）

- ・カフェ申し込み者の出足が遅く、最終的には個別に声掛けをして参加者を募った。（チラシ配布時は情報提供の内容を掲載できなかつたため、余裕をもって計画し、情報提供内容をちらしに掲載できるとよい）
- ・Web 個別相談の申し込みがなかったが、日程がカフェ後 2 週間というタイトなスケジュールであったことの影響がありそう。1 か月くらいは間が空いている方が参加しやすいのかもしれないし、あらかじめ日程を設けずにアドバイザーとの個別で調整を行うなどの方法を用いてもよさそう。
- ・アドバイザーから見て今回のカフェ参加者の相談内容から個別相談に進んだ方がよいと思われる方は見受けられなかったが、誰もが個別に申し込んでも話すことはあったようにも思われた。相談内容が明確で早々の解決を強く望んでいる方は費用対効果を感じて申し込みにもつながりやすいが、今回はそうではない場合が多かった。個別相談は必ず開催という位置付けなのか否か、すすめ方がとても難しいと感じた。
- ・同じブロック活動でも無料の場合は多くの参加があり、有料になると急に参加者が減少する状況があった。カフェ参加費（1000 円）は決して高額ではないが、参加者にとって参加手続きや費用対効果を適切で負担がないと感じさせることはとても難しいと感じた。

③その他意見や感想

- ・事業所管理者が管理者としての経験や教育があまりないままに管理業務に携わっている現状をあらためて感じ、支援の必要性や思いを表出する場の提供について自身や協議会の役割として考えることができた。今後の活動に生かされるとよい。

(2) アドバイザー報告書

相談1：暴力・セクハラに関すること

<具体的な相談内容>

- ・利用者への入浴介助時にセクハラ的な経験をした。特に若いスタッフがセクハラを受けることが多いように感じているが、管理者まで問題が上がらないことがある。
- ・患者、家族からスタッフへの言葉の暴力（怒鳴る、無視など）、理不尽な要求をされる（看護をさせてもらえないなど含む）経験があった。
- ・利用者によって訪問できるスタッフが限られてしまうことから、現実的なスタッフ配置には悩むことが多い。時には管理者が訪問にいかざる終えない状況になった。
- ・利用者からのセクハラ（胸を触られた）を管理者に訴えたところ、自分に隙があったのではないかと逆に言われてつらかった。
- ・ペット（犬）に手を噛まれた。

<アドバイスした内容：参加者からの意見も含む>

- ・状況を見て（聞いて）まず暴力・セクハラだと認識する（意識を高める・持つ）ことが重要。
- ・管理者として、毅然とした態度で、真摯に対応していく必要がある。
- ・事実をスタッフ間で共有すること、その際管理者として・事業所として揺るぎなく明確な姿勢を示すこと（揺らぐことでスタッフに不安や迷いが生じる、一貫した姿勢で対応する）
- ・対応は管理者だけが考えるのではなく、スタッフ全員で考える環境を整える。個人ではなく事業所としての対応として、具体的な対応策を打ち出す。
- ・暴力やセクハラが生じた（発見した）際の迅速な対応も重要だが、それ以上に日ごろの備えが重要。スタッフが困りごとをオープンに話せる環境作りや管理者からのスタッフへの日々の声掛けが大事。
- ・スタッフみんなが同じ思い、つらい思いをもっていることが共有できるだけでも不安の軽減や安心感となる。
- ・具体策として、初回訪問契約時に重要事項説明書に暴力・セクハラ関連の対応について明記し注意喚起をしておく、訪問時のリスクを考え状況で複数名訪問を行う、男性が訪問する、系列組織内の医療安全部門担当者の協力を得るなど。何よりスタッフを守る、理不尽な離職をさせないことを示す。

相談2：困難事例

<具体的な相談内容>

- ・こだわりの強い利用者・家族への対応、排便コントロールが必要な利用者だがその必要性を家族が認識できないため、定期的な訪問や必要な処置が実施できずにスタッフが疲弊している。

<アドバイスした内容>

- ・訪問看護で遭遇しやすい、大変な事例であることを参加者で共有。
- ・解決は難しいかもしれないが、利用者・家族がそのように考える背景（環境や理解度などを

む) を考え糸口とする。

- ・スタッフが疲弊している事実はつかめているので、スタッフの思いが溜まりすぎないように吐き出せる機会を作る。みんなで共有していくことが大事。
- ・訪問看護以外に関わる他職種（医師、ケアマネ）などへの相談や協力を得ていくのもよい。

相談3：スタッフの育成

<具体的な相談内容>

- ・利用者の状況に合わせた適切なケアが提供できず、利用者からそのスタッフの訪問を断られた。
- ・訪問に行ったことのないケースへの訪問には行けないとスタッフから言われ、管理者が出向いた。
- ・スタッフは一人で訪問できると話すが状況的に問題ないとは判断できず悩む。

<アドバイスした内容>

- ・管理者が自己の体験を話し、カンファレンスを定期的で開催することで、利用者情報の共有や実施した看護を振り返る機会を作る。定期的に継続的に丁寧な振り返りができるようにする。
- ・スタッフが困難感を感じ自己の問題を認識する場合などは同行訪問が効果的、できていることそうでないこと、どうすればよいかの方法などタイムリーに振り返り修正できる。思いを聞き、答えを出すというよりは何が問題か・なぜ問題かに気づかせる、解決に向けての道しるべとなる働きかけが管理者として重要。
- ・普段から利用者情報を共有し、受け持ち以外でも訪問に同行するなど日ごろから緊急時対応について準備することが重要。同行訪問は全部の時間ではなく冒頭に絞って同席することや利用者概要を利用者宅で説明し退出するでもよい、事業所内で共通の手順書を作るなどの工夫もよい。
- ・千葉県や滋賀県など多くの看護協会からスタッフ育成に関する手引きやチェック（評価）シートが出されているので、そのようなツールを活用し人材育成に活用するのもよい。

相談4：

<具体的な相談内容>

- ・初回訪問日とサービス担当者会議の日程調整について、同日がよいのか否か、アセスメントのタイミングなど助言がほしい。

<アドバイスした内容>

- ・サービス担当者会議では利用者に関わる者が一堂に集まるため、利用者情報や家族状況、それぞれの専門職（事業所）などの支援者や支援方針などを共有しやすく、状況に合わせて計画も修正しやすい。ケースによっては状況把握や調整に時間を要することもあるので、初回訪問前に会議（顔合わせ）を行う必要も生じる。関わる人（ケアマネや入院先の退院支援看護師など）に事前に確認し、時期や参加者などを事前に調整（依頼）し、遅くとも初回訪問時にはサービス担当者会議ができるように準備できるとよい。初回訪問前にサービス担当者会議が実施できれば余裕をもって利用者アセスメントが可能となる。

<まとめ>

- ・ 普段交流する機会の少ない訪問看護管理者が同じような悩みや不安を持ちながら、管理業務を行っていることが、参加者全員で共有できた。
- ・ 協議会（ブロック活動）として、今後も継続して支援していきたいと考えている。
- ・ 協議会の活動（カフェ・個別相談会）や地域の認定看護師などリソースを上手く活用し、一人で悩まずに気軽に相談してほしい。

4. 地域向け研修会

活動名称： 地域向け研修会

実施日時： 2021年10月7日(木) 10時00分～11時00分

開催方法： Zoom（オンライン型）

講師： （内部講師）尾崎 美智 氏

参加人数： 計 20 人（琴浦町住民、地域包括支援センター職員）

活動内容の報告：

① 活動の目的

国が目指す『わが事』『丸ごと』の地域づくり、地域包括ケアの理念の普遍化に向け、多くの国民が望む自宅でのエンディングを叶えるために、介護者や地域住民の一人としての心構えを伝える。

② 具体的な内容

住民は地域の集会場に集まり、講師はオンラインで研修を行った。

内容)

- 厚労省のアンケートを元に、参加者それぞれが人生の最期をどこで迎えたいか考えてもらい意見交換を行った
- 看取りの場（病院、施設、在宅）の特徴を示し、在宅看取りの具体的な様子と訪問看護の役割を伝えた。また公的資源だけでなく、友人や地域住民のサポートも有効だった事例を伝え、在宅看取りを行うために地域でできることを考えていけるよう投げかけ研修会を終了した。

③ 活動の効果

参加者は60歳代から80歳代以上の方であり、テーマに興味を持って参加してもらえ、アンケートの結果から多数の人が「生き方を考えるきっかけとなった」と回答していた。また、感想では、「家族と共に最期を考える話し合いをすることが大切」や、「訪問看護の話を聞いて在宅療養ができるような気がしてきた」という意見があった。今後在宅看取りを推進していくための土台となる住民の心構えができたのではないかと考える。

④ その他

ハイブリット研修であったが、住民の声が講師に聞こえにくく、スムーズなやり取りができなかったのが残念だった。

「訪問看護の出前講座」参加者アンケート結果

1. 年齢を教えてください。

1) 20 歳代以下	0	人
2) 30 歳代	0	人
3) 40 歳代	0	人
4) 50 歳代	0	人
5) 60 歳代	2	人
6) 70 歳代	6	人
7) 80 歳代以上	2	人

2. 参加されて感じられたことを聞かせて下さい。

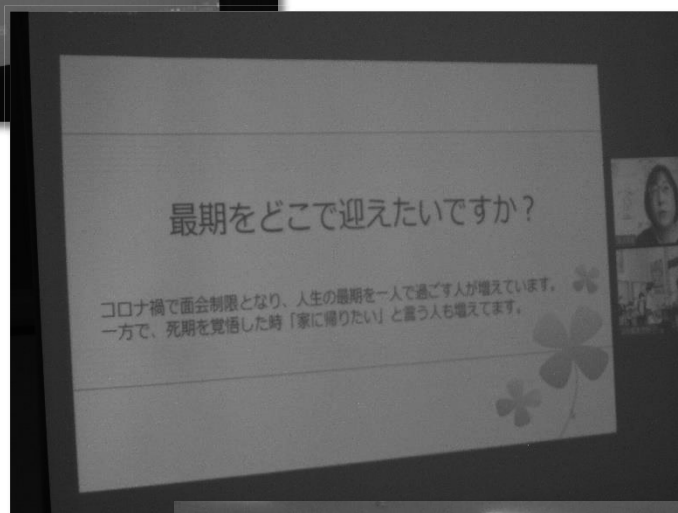
(複数回答可)

1) ためになった	9	人
2) あまりためにならなかった	0	人
3) 面白かった	1	人
4) あまり面白くなかった	0	人
5) 話が分かりやすかった	8	人
6) 話が難しかった	0	人
7) 今後の生き方を考えるきっかけになった	10	人

3. 今日の感想がありましたらお書き下さい。

- ・今は元気だが、数年先の不安を覚えた。早めにいろんなことを考えながら暮らしていきたい。
- ・身近に感じたお話しでした。
- ・意識づけになりました。
- ・訪問看護の話を聞いて出来れば在宅療養ができるような気がしてきました。
- ・家族内で話し合うことが大切だと思います。その都度、様子が変わるごとに話し合いが必要だと感じた。
- ・自分、家族共に最期を考えることを話し合いたいとの思いが強くなりました。
- ・今日参加して話を聞いて本当に良かった。
- ・介護職をしていましたので、一人でも多くの方が参加されたらと思いました。
- ・良いお話でした。とても参考になりました。

4. 介護や在宅療養について不安な事や悩みがありましたらお書き下さい。
 - ・自分がしていることが本当にいいのか不安になる。
 - ・現在 主人は入院中です。コロナで面会ができなくて残念です。
5. 今後、また訪問看護・在宅療養に関する出前講座の機会があれば聞いてみたい内容がありましたらご記入ください。
 - ・訪問看護について



第3章 事業の評価

- 1 ブロック活動
- 2 研究活動支援
- 3 コンサルテーション活動
- 4 地域向け研修会

1. ブロック活動

ブロック活動は、認定看護師の資質向上や地域に貢献するための活動を企画、運営することを目指し取り組んでいる。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く状況の中、前年度の経験を活かし、活動を中止することなく開催方法を Web 開催にすることで継続できている。

また、研修会やブロック会議等の開催は Web で開催することにより、より参加がしやすくなり、参加者や打ち合わせ等の回数を増やすことができた。しかし、対面(集合)することができないことによる課題もでてきている。その一つが、参加費の集金についてである。非会員には参加費を設定し、事前に入金して頂くことがガイドラインに明記されているが、ガイドライン通りに実施できないこともあった。今後は、この現状も踏まえた検討が必要と考える。

9ブロックの会員数は10名以内から100名以上と大きく差があり、そのため、ブロックの状況により活動への負担、会員への周知等の難しさなどブロックそれぞれの課題はあるみられた。そのような状況においても、各ブロック内で、創意工夫した企画を行ったことで、研修参加者の満足度は高く、訪問看護認定看護師としての活動に活かされる内容に繋がっていると評価する。

また、交流会を企画したブロックでは、新型コロナウイルス感染の対応など、情報交換の場となり有意義な会を持つことができています。

今年度は従来の活動に加え、「訪問看護ステーション運営改善相談事業」「地域向け研修会」も実施することとなった。全国9ブロックのうち各1ブロックずつの実施と限られていることから、自己研鑽活動だけではなく、地域貢献活動に取り組むための支援も検討が必要と考える。例えば、今年度の活動を他のブロックに知ってもらえる機会等を設け、次年度に取り組むブロックがより活発につながるよう検討していきたい。

ブロック活動支援担当理事

平野 智子

伊藤 みほ子

2. 研究活動支援（調査活動）

いつもアンケートへのご回答にご協力して下さいまして本当に、感謝いたします。

2024年に行われる診療報酬・介護報酬の同時改定に向けて要望書を提出するための基礎資料として皆様に調査させて頂きました。

この内容を読んでいますと、本当に日々目の前にいらっしゃる療養者・家族の一番近い存在として尽力され、そして多職種連携ではハブとして活動して頂いている姿が凄く分かりました。

病院との連携も報酬に関係なく時間を作って実践されていることや、看取りの実践もこの貴重な多くの意見を頂きまして、しっかりと日本訪問看護認定看護師協議会として要望をしていかなければならないという決意をしております。

個人では何もできませんが、1人1人が力を合わせると大きな力になると確信しております。日本訪問看護認定看護師協議会という団体が、必ず、この要望を実現可能になりますように政策提言させていただきます。

この度は、本当に貴重なお時間を頂戴いたしましたことを改めて感謝いたします。

研究活動支援担当理事兼任

大橋 奈美

3. コンサルテーション活動

訪問看護認定看護師が地域の事業所や訪問看護師、多職種の方々の相談に応じ、支援することは地域貢献の1つであり、訪問看護認定看護師の良さを知っていただく機会となる。この活動を通し地域、行政等から必要と認識していただけるようにすることは、当事業を行う根柢の目的である。

昨年度再構築されたコンサルテーション事業を今年度はブロック活動とし実施することとなり各ブロックへ開催の希望をつのつたが手上げはなく、理事会で検討しデーターより開設年度内廃止が多い地域の北関東ブロックの千葉県開催となる。

在宅看取り研修や他のブロック活動もありファシリテーターの人選が大変だったがメンバーそれぞれ主体的に動き円滑に役割分担され、フォローしあいながら準備、運営できた。

コロナ禍で直接対面が困難で前年同様 ZOOM を使ってオンライン形式の「相談カフェ」の開催となった。2020年作成のマニュアルを元に事前ミーティングを行ったことでイメージ化でき、スムーズに運営できている。カフェ申し込みの出足が遅く個別に広報し参加者を募ることとなった。周知の方法や、ほかの研修会でも有料になると参加者の減少があり、カフェ参加費は高額ではないが集客方法が課題となる。今回個別相談の申し込みはなかったがカフェ後2週間というスケジュールであったこと、カフェ参加の相談内容から申し込みにつながらなかったと思われる。

カフェの情報提供や座談会についてはアンケート結果からも内容の評価は高く、オンライン開催での難しさがある参加者にとって身近な雰囲気での解決策を共有することができた。

事業所管理者が管理者の経験や教育がないまま管理業務に携わっている現状があるが、横のつながりもない場合も多い。認定看護師として地域の訪問看護ステーションの運営、質の向上、制度の理解など一緒に考え、思いを表出できる場の提供する取り組みを継続していきたい。

コンサルテーション活動担当理事
田川 章江

4. 地域向け研修会

沖永良部島研修会について

年度当初の計画では、以前計画をしていた「沖永良部島看取り研修会」の再企画実施を「沖永良部島研修」とし再度計画をした。

九州ブロック主催により、2022年2月開催を目指し、沖永良部島の皆さんと詳細な打ち合わせや、九州ブロック担当理事による下見などを行い、綿密な計画を立ててきた。

しかし、2021年12月に沖永良部島より「コロナ感染状況により、研修会の開催を中止したい」との申し出があり、今年度計画実施には至らない結果となった。「沖永良部島」での研修会は、島国である日本において島しょ部での在宅医療の推進に関する研修会や看取りに関する研修会は、多職種連携や島の文化の熟成にもつながり地域包括ケアの構築にも寄与できるものと考えていた。コロナ禍における判断にて中止としたが、今後もチャンスがあれば、訪問看護認定看護師のネットワーク、実践力、調整力を駆使し開催できることを望む。沖永良部島での住民や医療介護従事者対象でのオンタイム研修には至らなかったが、研修会での講師2名の講義内容を九州ブロック研修に変更してオンラインで開催し、他地域等からの参加も可能とした研修へと切り替え開催をしている。そのため、ここでの報告は省略する。

鳥取研修会について

中四国ブロック主催による、鳥取県にて、地域住民を対象とした研修会を開催した。

「わが事」「丸ごと」の地域づくり、地域包括ケアの理念の普遍化に向け、多くの国民が望む自宅でのエンディングを叶えるために介護者や地域住民の一人としての心構えを伝えることを目的に以下の内容で行った。

開催方法：ハイブリッド形式 講師は香川県よりオンライン参加

会場：鳥取県東伯郡琴浦町大字湯坂 旧安田保育園

対象者：70～80歳代の高齢者 20名

テーマ：「人生の最終段階における心構え・人生の最期をどこで迎えたいか」

2025年には開催場所の高齢化率は40%を超える地域であり、人生の最終段階における医療や介護についてわが事として、地域住民と地域包括職員に向け、地域全体で取り組めるように訪問看護認定看護師として出逢った方々の話を通じ、人生の最終段階における心構えについて考えるきっかけとなるよう働きかけを行った。このような働きかけや、仕掛け作りに訪問看護認定看護師の活動から得られた、実践からの声やコミュニケーション力が地域住民への心に届き、エンパワーメントしていける事と期待できる。

訪問看護認定看護師の持つ、実践力・双方向のコミュニケーション力をベースとしたこのような地域住民や多職種をも含めた人々を対象とした地域での研修会企画は、地域力向上にも有効であり、多死社会や多職種連携においても社会的意義が高い活動であると考えます。

訪問看護認定看護師の強みである”巻き込む力””医療と介護の橋渡し””調整力“は、地域住民一人一人が最後まで暮らせる地域づくりのために、人生の物語を基本としたケア、すなわち”ナラティ

ブケア“を実践するために役立つ社会資源である。

地域向け研修会担当理事
杉本 由起子

別添資料

- 1 会員数及び9ブロック図
- 2 組織について
- 3 理事会及び総会等の開催

1. 会員数 (2022年3月15日現在)

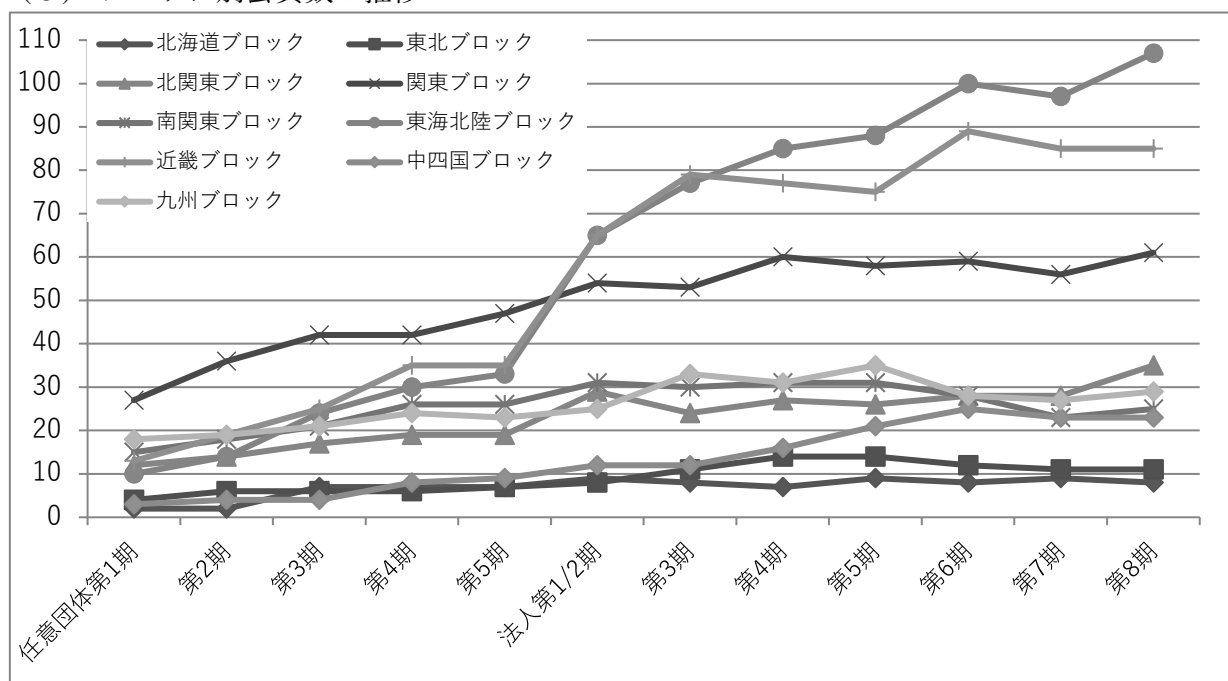
(1) 2021年度会員数

正会員 384名 ・ 賛助会員 12名

(2) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会における9ブロック区分図

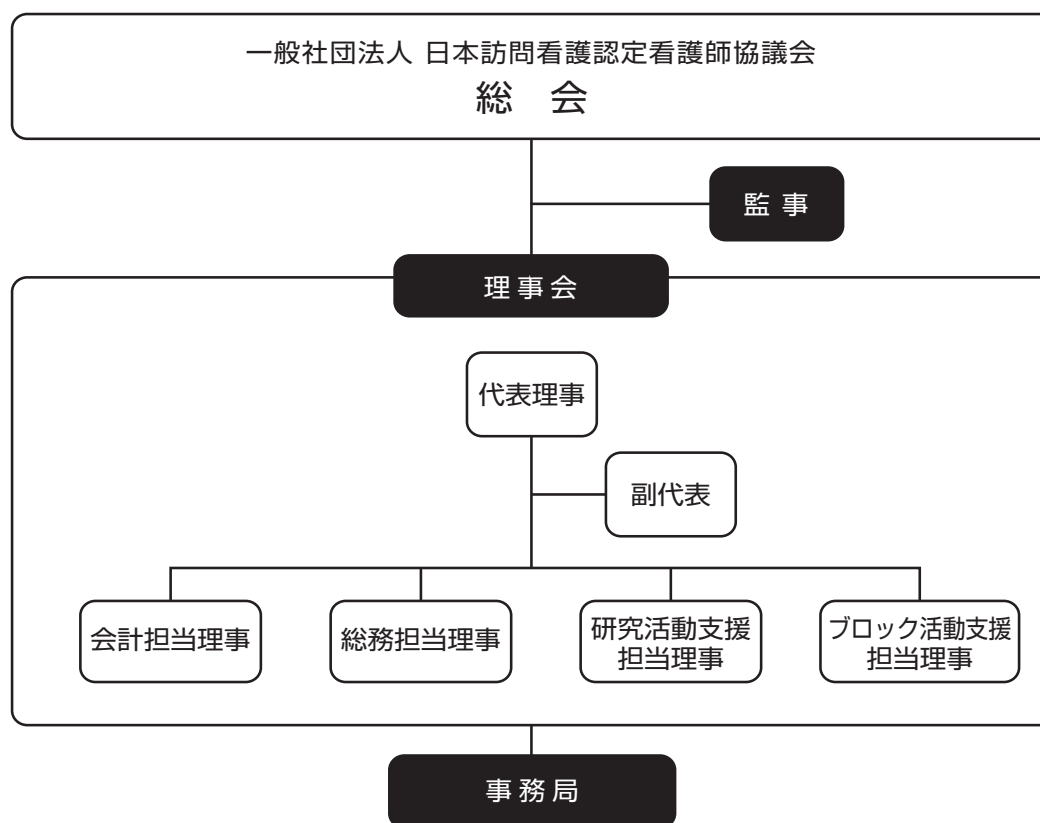


(3) ブロック別会員数の推移



2. 組織について

(1) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会における執行機関係統図



(2) 理事会・事務局名簿 (ブロック順・敬称略)

〔理事〕

代表	大橋 奈美	医療法人ハートフリーやすらぎ 常務理事兼統括管理責任者 訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ
副代表	廣川 直美	ナースステーション東京 目黒支店 所長
	田川 章江	社会医療法人孝仁会 訪問看護ステーションはまなす
	戸崎 亜紀子	公益財団法人 星総合病院 法人看護部
	佐々木 ゆかり	船橋市医師会 船橋市在宅医療支援拠点 ふなぽーと 総括者
	平野 智子	特定非営利活動法人 訪問看護ステーションコスモス 所長
	伊藤 みほ子	公益社団法人 長野県看護協会 常務理事
	松下 容子	みんなのかけつけ訪問看護ステーション四日市 所長
	杉本 由起子	学校法人 河原学園 人間環境大学 松山看護学部
	坂口 まり子	有限会社 ライフデザイン 代表取締役

〔監事〕 野崎 加世子 社団法人 岐阜県看護協会 訪問看護ステーション 統括所長

〔事務局〕 公益財団法人 日本訪問看護財団 常務理事 佐藤 美穂子
村田 由香里

3. 理事会及び総会等の開催

(1) 理事会

事業推進の為、全3回開催した。今期もコロナ禍のため、全会議 Web での開催となった。

- 第1回 2021年5月15日(土) Zoom Meeting によるオンライン開催
- 第2回 2021年9月25日(土) Zoom Meeting によるオンライン開催
- 第3回 2022年3月5日(土) Zoom Meeting によるオンライン開催

(2) 理事・ブロック長合同会議

ブロック活動の活性化を図ることを目的とし、全2回開催した。

- 第1回 2021年6月12日(土) Zoom Meeting によるオンライン開催
- 第2回 2022年3月5日(土) Zoom Meeting によるオンライン開催

(3) 総会・交流会の開催

- 1) 2021年度(第8期) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 総会
日 時：2021年6月12日(土) 13:00~13:30
会 場：公益財団法人 日本訪問看護財団より配信 (Zoom Meeting)
出席者：232名 (内訳：本人出席者82名 委任状150名)

一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会	
第8期(2021年度)	
定 時 総 会 次 第	
1. 開会	
2. 議長及び議事録署名人の選出	
3. 議案	
第1号議案	第7期(2020年度)事業報告及び収支決算報告 ・監査報告承認の件
第2号議案	第8期(2021年度) 事業計画(案)
第3号議案	第8期(2021年度) 収支予算(案)
第4号議案	任期満了に伴う役員改選(案)の件
第5号議案	定款一部変更及び追加(案)の件
4. 議長解任	
5. その他	
6. 閉会	

本年度も新型コロナウイルス感染拡大を配慮し、Zoom を利用したバーチャル出席型での開催となった。

Zoom の投票機能を利用することで、バーチャル出席した会員が議決権を行使でき、更に質問や意見表明はチャットを利用することで、対面型と変わりなく議事を進めることができた。



～議事を進める大橋代表～



～司会を務める平野理事と議案説明をする廣川副代表～

2) 「2021 年度総会同時開催研修会」

日 時：2021 年 6 月 12 日（土）13：30～16：00

会 場：公益財団法人 日本訪問看護財団より配信（Zoom Meeting）

出席者：82 名

プログラム：

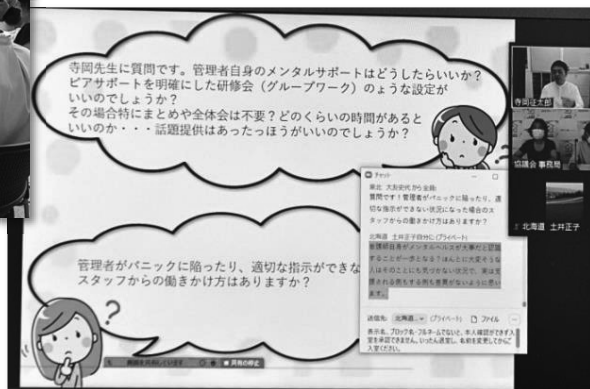
時間	プログラム
13：30～	『同時開催研修会』開会 情報提供：「2020 年度 訪問看護認定看護師 更新申請の情報提供」 九州ブロック 宮城愛子氏 (訪問看護ステーション アレグリア)
	(10 分間休憩)
14：00～	講義「新型コロナウイルス感染症にかかわる 訪問看護職員のメンタルヘルス」 学校法人和洋学園 和洋女子大学看護学部 准教授 寺岡征太郎氏 チャットによる質問受付
16：00	まとめ 終了

昨年度より試行錯誤しながら企画してきたオンライン研修会だが、企画運営側も参加者もだんだんと慣れて来て、参加者も比較的にストレスなく参加できるようになった。今期はホームページも活用し、総会同時開催研修会専用サイトを立上げ、当日配布する資料をすべてオンライン化して各自ダウンロードして頂くことにした。また、当日の様子も記録し、後日ホームページで一般公開した。(https://jvncna.net/news/info/20210703.html)

今回の経験を活かし、感染状況を見ながらハイブリッド型も取り入れて行きたいと考えている。



～Zoom 配信現場の様子～



～チャットに上がる質疑応答を

共有画面でリアルタイムに公開する～

3) 「一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 交流会 2021」

日 時：2021年12月11日（土）13：00～16：30

会 場：公益財団法人 日本訪問看護財団より配信（Zoom Meeting）

出席者：75名

プログラム：

時間	プログラム
13：00～	『交流会 2021』開会 代表理事ご挨拶
13：15～	講義『在宅医療の臨床倫理』 日本臨床倫理学会 総務担当理事 東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野 客員研究員 箕岡医院 院長 箕岡真子氏
14：45～	質疑応答 (10分間休憩)
15：10～	グループワーク
15：55～	発表
16：10～	まとめ
16：15	終了（アンケート入力）

6月の総会同時開催研修会に続いてオンライン開催とし、ホームページを活用した資料提供を行った。また、当日の様子も記録し、同様にホームページでレポートを公開した。

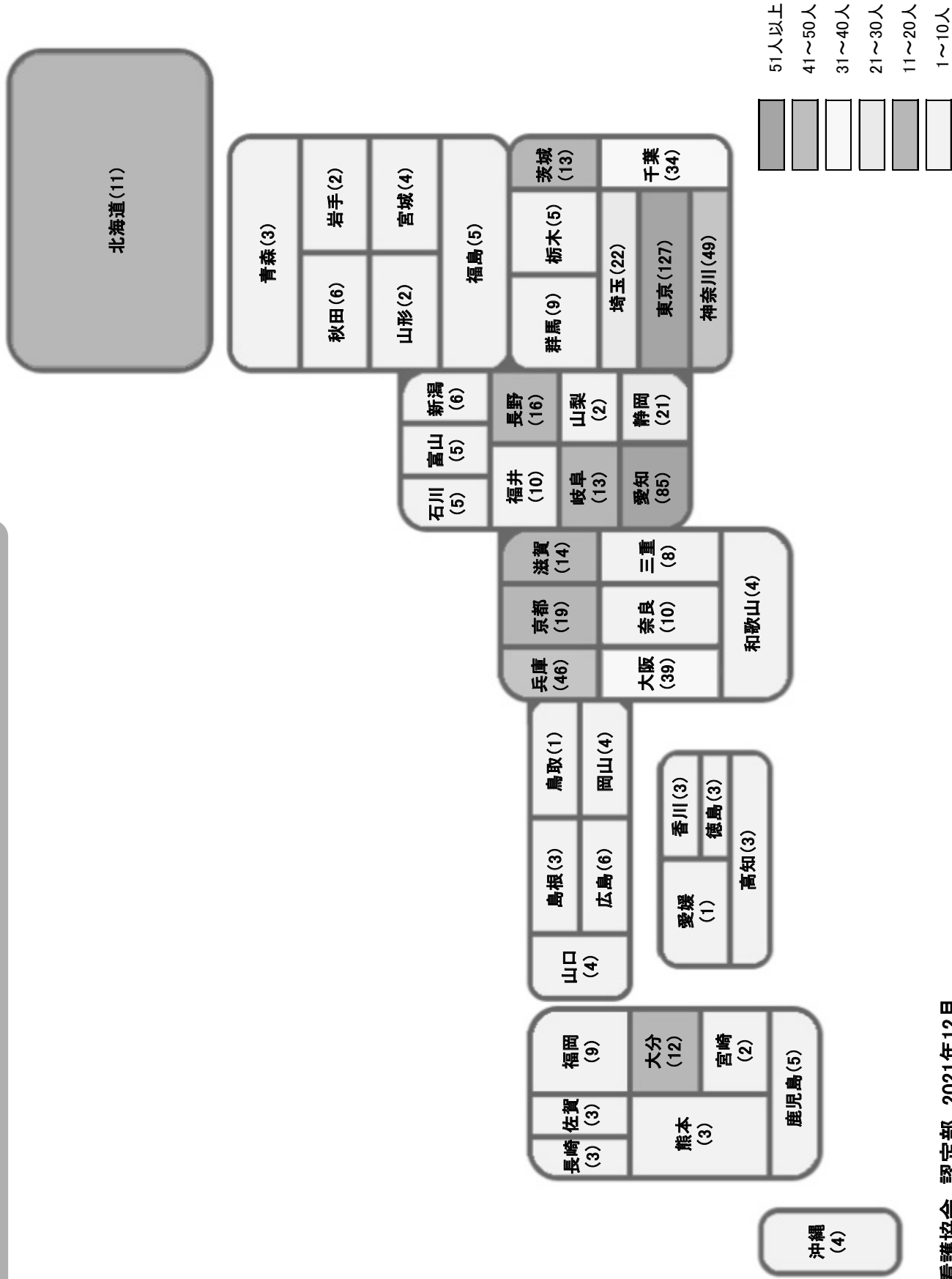
(<https://jvncna.net/news/info/20220208.html>)

アンケートで頂いた皆様のご意見を取り入れながら、次年度も中身の濃い交流会を開催したいと思う。

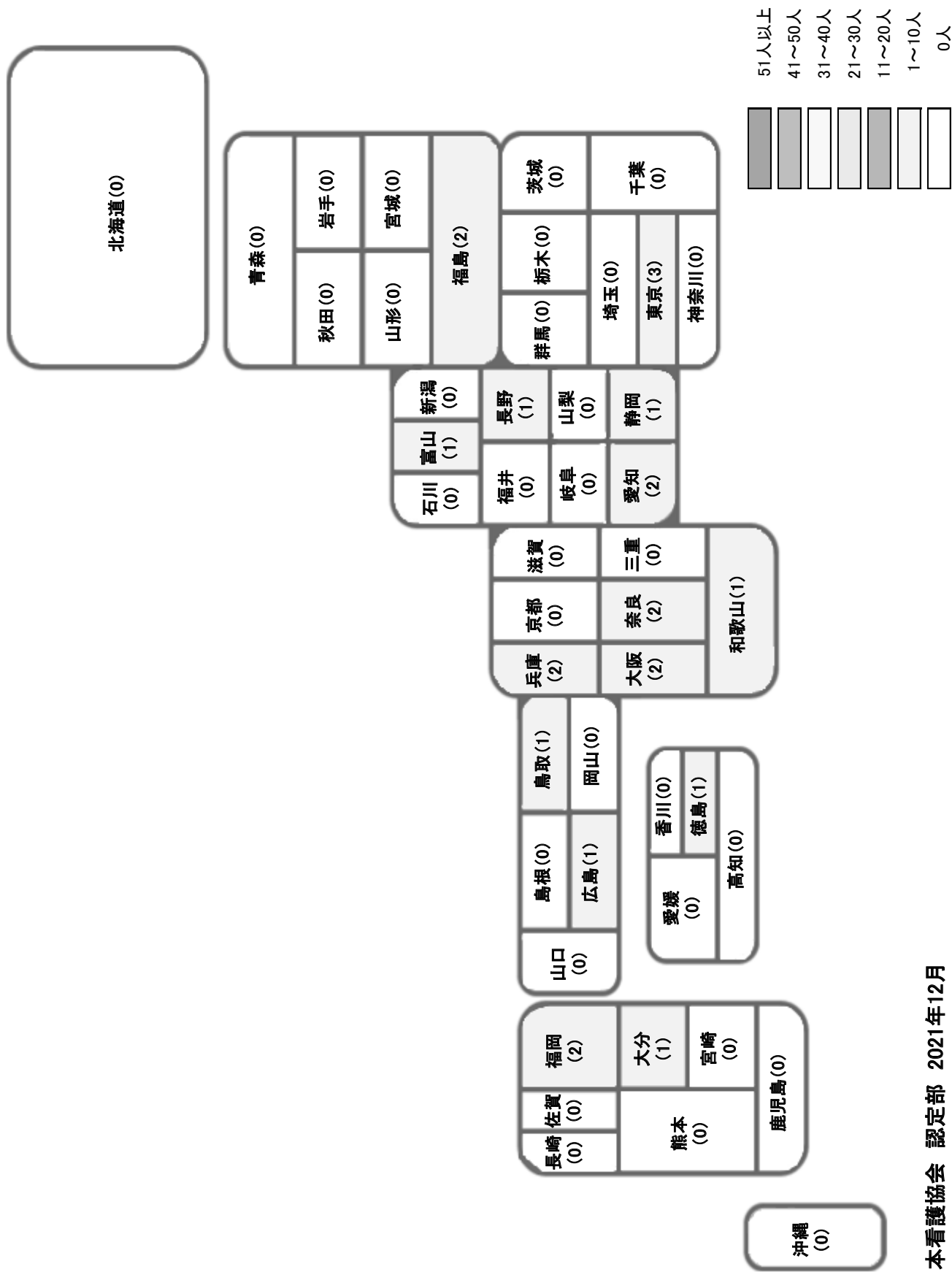


～オンライン参加された皆様～

【A課程】訪問看護認定看護師数 664名



【B課程】在宅ケア認定看護師数 23名



2021 年度日本財団助成事業

訪問看護認定看護師による在宅ケア・在宅看取り活動の推進事業報告書

2022 年 3 月 31 日 印刷・発行

発行



一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5 階

公益財団法人日本訪問看護財団内

TEL 03-5778-7008

FAX 03-5778-7009

URL <https://jvncna.net/>

印刷

株式会社 文創堂

- 記載事項の一部または全部について、許可なく複写・複製することを禁じます

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION